



フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-15-10 東部区民事務所3階 TEL:03-5961-5202 FAX:03-5961-5207 Festival/Tokyo 1-15-10 Kita-Otsuka, Toshima-ku, Tokyo 170-0004 Japan Telephone: +81-(0)3-5961-5202 Fax: +81-(0)3-5961-5207

フェスティバル/トーキョー16 事業実績報告書 2017.3

Festival/Tokyo 2016 Activities and Results Report March 2017



フェスティバル/トーキョーとは

Festival/Tokyo

フェスティバル/トーキョー (F/T) は、東京芸術劇場をはじめ池袋エリアに集結する文化拠点を中心に開催する日本最大級の国際舞台芸術祭。2009年に誕生以来、舞台芸術の魅力を多角的に提示している。

9回目となる F/T16 は、F/T 実行委員会、豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン、アーツカウンシル東京・東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)が主催し、文化庁による助成、アサビビール株式会社、株式会社資生堂をはじめとする協賛企業と多くの後援・協力団体による支援の下で、2016年10月15日(土)~12月11日(日)までの58日間にわたり開催。

各プログラムは、東京芸術劇場、あうるすぼっと、にしすがも創造舎、 池袋西口公園、南池袋公園、豊島区庁舎に加え、公益財団法人セゾン 文化財団の協力を得た、森下スタジオ及びその周辺において、16 演目 4 企画を実施した。

国内外の優れた同時代の演劇やダンス、ジャンルの枠を超えた舞台作品を上演することで、東京、さらには日本の舞台芸術シーンを活性化し、各地の劇場・フェスティバル・文化機関とのネットワークを構築して国内外の文化交流を促進することを目指している。また、無料の野外プログラム、トーク、映画上映など多彩なプログラムを数多く行い、都市型フェスティバルの可能性とモデルを更新するべく、新たな挑戦を続けている。

Festival/Tokyo (F/T) is Japan's largest performing arts event, based at Tokyo Metropolitan Theatre and other venues in the Ikebukuro area of Tokyo. Launched in 2009, it aspires to present the multi-faceted appeal of theatre and dance.

The ninth festival was organized by the Festival/Tokyo Executive Committee along with Toshima City, Toshima Mirai Cultural Foundation, NPO Arts Network Japan (NPO-ANJ), Arts Council Tokyo and Tokyo Metropolitan Theatre (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture). Supported by the Agency for Cultural Affairs as well as many other organizations and corporations, including Asahi Breweries, Ltd. and Shiseido Co., Ltd., F/T16 was held for 58 days, running from October 15th to December 11th, 2016.

The festival program comprised 16 productions and 4 event programs, held at Tokyo Metropolitan Theatre, Owlspot Theater, Nishi-Sugamo Arts Factory, Ikebukuro Nishiguchi Park, Minami Ikebukuro Park, and Toshima City Office, as well as at Morishita Studio and its surrounding area with the support of The Saison Foundation.

By presenting the work of international theatre and dance that transcends conventions, the festival aims to revitalize the performing arts scene in Tokyo and Japan as well as promote global cultural exchange through constructing a network with other theatres, festivals and cultural bodies. Also including free outdoor events, talks, screenings, and more, F/T continues to try new endeavors in order to renew the possibilities and format of a festival based in a city.

1 概況 Overview

F/T16 主催プログラムでは「境界を越えて、新しい人へ」 をテーマに 16 作品を上演した。ヨーロッパ演劇をリード するポーランドの巨匠、クリスチャン・ルパの日本初来日 公演をはじめ、日本の舞台芸術シーンを牽引する演出家た ちによる新作公演や、国境やジャンルを越えたパートナー シップに基づく共同製作、観劇体験を通じて歴史を見つめ 直すような作品に加え、東日本大震災の経験を経て生み だされた表現にも目を向けた。また、国際交流基金及び 国際交流基金アジアセンターとの協働により F/T14 からス タートさせた「アジアシリーズ」の第3弾では、国の成立 から50余年、多民族社会と言われるマレーシアから、異 なるバックグラウンドを持つ6組のアーティストを招聘。 さらに今年から「まちなかパフォーマンスシリーズ」を立 ち上げ、池袋東口で、ジャンルの異なる4つの演目を劇場 外で上演し、豊島区庁舎や南池袋公園内のカフェなど日常 の延長線上で上演することで、舞台芸術のすそのを広げる 活動に取り組んだ。

その他、シンポジウムや作品をより深めるためのトーク、 映像上映、東京芸術劇場のアトリエや劇場ロビー、豊島区 庁舎や図書館を活用した展示など、多彩なプログラムを展開した。また、10月、11月に都内および東京近郊で開催された14演目を連携プログラムとして紹介したことで、東京の舞台芸術シーンを国内外へ広く発信した。

F/T16ののべ動員数は、83,014人。このうち、主催 公演は28,744人であった。財政面では、さまざまな要 因が重なり、例年に増して厳しい予算状況での運営となっ た

F/Tでは未来の舞台芸術シーンを牽引する人材の育成を重要な課題と考え、制作及び広報スタッフのインターンシップ・プログラムを実施し29名を受け入れたほか、全国の学生を対象に参加者を募って「F/Tキャンパス」を開催した。また、今年も多くの「F/Tサポーター」(ボランティア・スタッフ)が公演当日のサポートだけでなく、プログラムへの参加や自主企画による活動など、年間を通して活動し、フェスティバルを支えた。

The Festival/Tokyo 2016 Main Program featured 16 productions on the theme of "Beyond Borders." These included the first visit to Japan of the work of Polish director Krystian Lupa, a giant of European theatre, as well as new works by leading figures in the Japanese performing arts scene, co-productions based on partnerships that transcended national boundaries or genre, work that reexamined history through the theatre experience, and art born out of the trauma of the Great East Japan Earthquake. The third iteration of the ongoing Asia Series, which was launched at F/T14 in partnership with the Japan Foundation and the Japan Foundation Asia Center, presented the work of 6 artists and groups with diverse backgrounds from Malaysia, a multi-ethnic nation founded only some 50 years ago. This year the festival also started a new initiative, the Outdoor Performance Series, which featured 4 very different productions staged in unconventional locations around the east Ikebukuro area. Performed in everyday places such as Toshima City Office and a cafe in Minami Ikebukuro Park, the program expanded the scope of the performing arts in

There was also a broad range of satellite events, including

a symposium, talks about the performances, a film screening, exhibitions at Toshima City Office and Toshima Central Library, and other events at theatre lobbies and the atelier space at Tokyo Metropolitan Theatre. The F/T Affiliated Program presented 14 productions running in parallel with F/T in October and November in Tokyo and the surrounding area, widely publicizing the Tokyo performing arts scene.

F/T16 attracted a total audience of 83,014. Performances of productions in the festival's Main Program were attended by 28,744 people. Various factors meant that the budget for the festival was lower than in previous years.

F/T also regards training as an important issue for the future of the performing arts scene in Japan. As such, the festival organized a production and PR team internship program with 29 participants as well as F/T Campus, which was aimed at university students from all over Japan.

In addition, participants in the F/T Volunteer Supporters program assisted not only front and back of house during the performances but also worked on projects, including their own independent ones, throughout the year in order to support the operation of the festival.

開催スケジュール

Festival Schedule

stival Schedule						
Sat Sun Moi 「フェステイバル **Pestival Fukushi **Festival Fukushi *	n Tue Wed Thu Fri Sat Sun Mor FUKUSHIMA!@池袋西口公園』(p.7) Imal @ikebukuro Nishiguchi Park*	25 26 27 28 29 30 31 Tue Wed Thu Fri Sat Sun Mon	11·1 2 3 4 5 6 7 Tue Wed Thu Fri Sat Sun Mon	8 9 10 11 12 13 14 1 Tue Wed Thu Fri Sat Sun Mon Ti	5 16 17 18 19 20 21 Wed Thu Fri Sat Sun Mon	27 28 29 30 12·1 2 3 4 5 6 7 8 9 Thu Fri Sat Sun Mon Tue Wed Thu Fri
15:00~ 13:00~ 雨ヲ	天狭行・荒天中止 ntinues in case of rain. Cancelled in case of storm. 「Woodcutters - Woodcutters - 16:00● 16:00○ 13:00●	₮ —』(p.8)		Open to any ticket holder. ☆=終演後、ワールドカフェあり、Wo 要予約。開催日のチケットをおす	方は日時を問わず入場可(ただし終演後) rld Cafe event	展示 Exhibitions (p.22) 豊島区立中央図書館 Toshima City Central Library 9/24 (Sat) - 11/24 (Thu) 豊島区庁舎まるごとミュージアム Toshima City Office 10/1 (Sat) - 11/30 (Wed) 映像上映 Film Screening (p.22) セルバンテス文化センター東京 Instituto Cervantes 12/1 (Thu)
東京芸術劇場 シアターイースト Tokyo Metropolitan Theatre (Theatre East)		F/Tテーブル(p.18)	[x / groove space] (p.11) "x / groove space" 19:00 19:00 13:00 ★ 12:00 ★ 17:00		のみ、場可 or the performance on the same day. レトークあり、Special pre-show talk by the director	ドイツ・ダンス月間 German Dance Month (p.22) 東京ドイツ文化センター Goethe-Institut Tokyo 10/31 (Mon) - 11/5 (Sat), 11/11 (Fri), 11/14 (Mon) - 11/19 (Sat)
東京芸術劇場 アトリエイースト Tokyo Metropolitan Theatre (Atelier East) あうるすぽっと Owlspot Theater	12:00~20:00	F/T Table 『寛れ.兵士』(p.10) "All the Soldiers are Pathetic" 19:30 19:30*14:00* 14:00	12:00-18:00			『Buddha Boxing』『Suddha Boxing"(p.13) ドーレ・ホイヤー 19:30 15:00 『人間の激情』『アフェクテ』『エ "Hommage à Dore
にしすがも創造舎 Symposium Nishi-Sugamo Arts Factory 13:30-16:00	"Blind Spot"	A 体演日 19:308 19:30A±19:30B±13:30A 17:30B		[NADIRAH] (p.14) "NADIRAH" 19:00 15:00★15:00★	『福島を上演する』(p.11) "Performing Fukushima" 19:00★ 19:00★ 15:00★ 15:00★	『となり街の知らない踊り子』「The Unknowin Dancer in the Neighboring Town" (p.17) 19:00
南池袋公園内 Racines FARM to PARK Racines FARM to PARK (Minami Ikebukuro Park)		『ふくちゃんねる』(p.16) "Channel Fuku" 16:00 16:00 11:30 11:30 20:00 20:00 15:30 15:30				『あなたが <mark>彼女にしてあげられることは</mark> 何もない』 "There is Nothing You Can Do for Her" (p.17) 17:30 17:30 17:30 17:30 17:30 20:00 20:00
豊島区庁舎10階 豊島の森 Toshima City Office (10F Toshima Forest)				『うたの木』(p.16) "Song Tree" 11:00 11:00 11:00 11:00 15:00 15:00 15:00		
森下スタジオ Morishita Studio			[BONDINGS BONDINGS (p.15) 19:30 14:00	『POLITIKO』*POLITIKO* (p.15) 19:00 19:00 19:00 18:00		
江東区某所 Koto ward				12:00 15:00 * 15:00 * 『B.E.D.	(Episode 5)]"B.E.D. (Episode 5)" (p.14)	

2 F/T16 を振り返る

ディレクター 市村作知雄

新しい F/T の姿をこれから 1 年程の間をかけて描いて いこうと思う。ただ、今まであったからといってこれから もあるという保証はどこにもない。こんなことを報告文の のつけから書くのはいかがなものかと思うが、F/T は解決 しようもない財政的危機にある。今後の絵図が描けない 状況のもとでの報告文にどれほどの真実味を持たせられる のか、寒々しい限りだ。ということで F/T16 のプログラム はかなり苦労した。諦めたり、緊急に入れたものも多いの で、どこまで狙いを貫けたかはやや怪しい。今年のテーマ は、「境界を越えて、新しい人へ」で、「新しい人」という コンセプトは来年以降も継続するだろう。「新しい人」が社 会の中枢を占めるようになる 20 年後に世界はどうなるの か、それを今から予測したいという野望である。

今年も『フェスティバル FUKUSHIMA! @池袋西口公園』 で幕を開けた。3年目で、これで一旦幕を降ろす。惜しま れるとはいえ、区切りをつけようと思う。関係者の皆様に 心より感謝を告げたい。ポーランドから巨匠クリスチャン・ ルパの『Woodcutters — 伐採 —』をメインプログラムと して招聘した。その最中にヴロツワフ・ポーランド劇場で の政変が勃発し、東京芸術劇場の舞台上で抗議の声明を 発表する姿が印象的だったが、今はポーランドのその劇場 にルパたちはもういないと聞く。井手茂太(イデビアン・ クルー)振付・演出『シカク』は、シェアハウスの日常を はっきりしたイメージとして受け取れるように創られた作 品で、ダンスと物語の関係性を考えさせられる作品に仕上 がっている。これは F/T のメイン会場である「にしすがも 創造舎」が一旦クローズすることを受けてのメモリアルの 意味もあった。マレビトの会(松田正隆を核とする集団創 作グループ)の『福島を上演する』は、今の福島を情緒に 流されることなく演じきった作品で、日常の中に風化して いく福島の現状が描き出されている。集団創作という難し いスタイルがどこまで進むことができるか今後も楽しみにし ている。パク・グニョン (劇団コルモッキル)作・演出の『哀 れ、兵士』はソウルの南山芸術センターの協力によって招 聘することができた。これは韓国の戦中、戦後の歴史の中 で犠牲になった兵士の物語が力強く描き出されている。混 迷する韓国の政治にあって、パク・グニョンもまたその政 治に振り回された渦中にいて、それ故に緊急に招聘するこ とにした。F/T16 のアジアシリーズはマレーシアを特集し た。マレーシアという多民族国家の抱える問題を共有した いと考えた。 ジョー・クカサス (インスタントカフェ・シアター カンパニー) 演出の『NADIRAH』は、宗教観の違いから 生まれる葛藤をストレートに描き出している。ASWARA-マレーシア国立芸術文化遺産大学『BONDINGS』は民族 対立を固定化せずそれを克服する未来を描き出している。 ムン・カオ創作『POLITIKO』は、多民族国家で政治的多

数派を作り、政権を奪取し勝利するカードゲームで、テー ブルを囲んで参加者はゲームに熱中した。リー・レンシ ン構成・演出・振付『B.E.D. (Episode 5)』は若いダン サーたちが、全館を提供していただいた森下スタジオとそ の近隣をも使って創作した意欲的な作品で、マットレスが 津波を思わせる効果を発揮した秀作となっている。今後の 中国特集を見込んで「北京発・カルチャーから見る現代 中国」と題し、FM3 による音楽パフォーマンス『Buddha Boxing』とスー・ジンによるトークを開催した。ドイツか らは二種のダンスを招聘した。一つはセバスチャン・マティ アス振付・構成の『x/groove space』で日本のアーティ スト伊東篤宏、瀬山葉子、岩井優も参加した。観客とダン サーが同じ空間にいて、知らずに作品に参加していくよう な、実験的なスタイルをとっている。もう一つはスザンネ・ リンケによる3つの作品である。ダンサーの力が圧倒的で、 作品の品位を感じることができた。アートの持つ底力を信 じたくなる公演となって、このような作品で F/T16 が終わ ることができたのは本当にうれしい。F/T16 の最大のチャ レンジは 「まちなかパフォーマンスシリーズ」 で、福田毅 作・ 演出・出演による『ふくちゃんねる』、森川弘和、村上渉、 吉田省念による『うたの木』、山本卓卓(範宙遊泳)脚本・ 振付・演出と北尾亘によるドキュントメント『となり街の知 らない踊り子』、岡田利規(チェルフィッチュ)作・演出と 稲継美保による『あなたが彼女にしてあげられることは何 もない』の4作品から構成されている。その狙いと意味は、 F/T17で明らかにしていきたい。 今は少し秘密にしておこ う。さらに重要性を増している主催企画として F/T テーブ ルや F/T キャンパス、シンポジウム、展示などを行なった。

F/T16 は、事故もなく無事終わることができた。以 前も同じことを書いたが、無事これ名馬、である。F/T16 を開催するにあたっては、本当にたくさんの方々の好意に 支えられている。豊島区、国際交流基金アジアセンター、 セゾン文化財団をはじめ、多くの組織、機関、企業、劇場 関係者、そして舞台を支えてくれた技術者の方々、さらに 力を貸してくれた才能に溢れた若者たち。いつか恩返しを したいものだ。

市村作知雄

1949 年生まれ。ダンスグループ山海塾の制作を経て、トヨタ・アー トマネジメント講座ディレクター、パークタワーホールアートプロ グラムアドバイザー、㈱シアター・テレビジョン代表取締役を歴任。 東京国際舞台芸術フェスティバル事務局長、東京国際芸術祭ディレ クターとして国内外の舞台芸術公演のプログラミング、プロデュー ス、文化施設の運営を手掛けるほか、アートマネジメント、企業と 文化を結ぶさまざまなプロジェクト、NPO の調査研究などにも取り 組む。現在、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン会長、東京藝 術大学音楽環境創造科准教授。

Looking Back on F/T16

Sachio Ichimura. Director

For the next year I want to draw a new picture of F/T. But there's no guarantee that it will be around in the future just because it has been until now. I'm not sure about starting off a report on the festival with this kind of statement but the fact of the matter is that F/T is facing an insurmountable financial crisis. Under such strictures of not being able to draw a picture of the future, it is bleak to consider how truthful we can make this report. We had to abandon some things and replace them with others at the last moment, so it's hard to say how far we attained our goals. This year's theme was "Beyond Borders." It was intended as a follow-up to last year's "Border Fusion" and will probably continue next year as well. My ambition is to predict what the world will be like 20 years from now when the young generation is occupying the pivotal role in society.

This year we once again opened the festival with "Festival Fukushima! @ Ikebukuro Nishiguchi Park" for the third and final time. Though I am sad to see it go, I want to bring this period of the festival to a close. I am very grateful to the organizers. We also invited "Woodcutters" by the Polish theatre giant Krystian Lupa. As this was happening, there were political changes at Polski Theatre in Wrocław and the protest they voiced on the stage of the Tokyo Metropolitan Theatre was striking, though I hear that now Lupa and the others are no longer at that theatre in Poland. "Blind Spot," choreographed and directed by Shigehiro Ide (idevian crew), presented images of everyday life in shared accommodation and made audiences consider the relationship between dance and narrative. This also carried the sense of a memorial for Nishi-Sugamo Arts Factory, the main F/T venue for F/T and which closed after hosting this dance piece. Marebito theater company, the group centering on Masataka Matsuda that creates work collectively, produced "Performing Fukushima," which attempted to stage the atmosphere of Fukushima today in its entirety, portraying its current status that is disappearing during the passage of day-to-day life. I look forward to seeing how far the group's tricky collaborative style can be developed in the future. Written and directed by Kunhyung Park (Theatre Company Golmokil), "All the Soldiers are Pathetic" was brought to festival with the cooperation of Namsan Arts Center in Seoul. It powerfully depicted the story of Korean soldiers who died during and after the war. While confusion reigns in South Korean politics and Park himself was caught up in this maelstrom, I quickly decided to invite his company to appear at the festival. This year's F/T Asia Series showcased Malaysia. I wanted to share the issues faced by such a multi-ethnic nation. Director Jo Kukathas (The Instant Café Theatre Company) presented "NADIRAH," which frankly depicted the conflicts that arise from religious differences. ASWARA (National Academy of Arts, Culture and Heritage) staged "BONDINGS," which refused to stereotype ethnic conflict and instead portrayed a future where such it is overcome. Mun Kao's "POLITIKO" was a card game where players made political majorities in a multicultural nation state and attempted to win power from each other. Participants enthusiastically played the game in groups around tables. In "B.E.D. (Episode 5)," conceived, directed and choreographed by Ren Xin Lee, young dancers made use of Morishita

Studio, which provided its whole facility, and the surrounding area to create an ambitious piece, masterfully harnessing mattresses to conjure up the image of a tsunami. As a preview of our future plans for a China showcase in the series, we presented a mini program called "Contemporary China, as Seen in Beijing Culture." This comprised a talk and "Buddha Boxing," a live music performance by FM3. Two dance productions were invited from Germany. One was "x / groove space," choreographed and conceived by Sebastian Matthias, and which also featured three Japanese collaborators (Atsuhiro Ito, Yoko Seyama, Masaru Iwai). The experimental work placed the audience and dancers in the same space, converting the members of the audience into unwitting participants in the performance. The other dance was an omnibus of three works by Susanne Linke. The power of the dancers was overwhelming, conveying the grace of the work. It was a performance that made you believe in the latent strength of art and I was so happy that we could close the festival with such a piece. F/T16's biggest venture was its new Outdoor Performance Series, which comprised four pieces: "Channel Fuku," written, directed and performed by Takeshi Fukuda; "Song Tree" by Hirokazu Morikawa, Wataru Murakami and Shonen Yoshida; DOCU(NT)MENT's "The Unknown Dancer in the Neighboring Town," written, choreographed and directed by Suguru Yamamoto (HANCHU-YUEI) with Wataru Kitao; and "There is Nothing You Can Do for Her," written and directed by Toshiki Okada (chelfitsch), and performed by Miho Inatsugu. I hope to make the aims and meaning of this new program clear at F/T17. For now, I'll keep my cards close to my chest. The program of satellite and related events at the festival included F/T Table, F/T Campus, a symposium, and exhibitions.

The curtain fell on F/T16 after a successful two months. I wrote it before but this horse is indeed a fine one. We are supported by many people who help us to organize the festival, not least Toshima City, the Japan Foundation Asia Center, and the Saison Foundation as well as numerous other organizations and bodies, corporations, theatre industry colleagues and backstage crews, and the highly talented young people who assist us. One day I want to repay

Sachio Ichimura

Born in 1949. He has served as an administrator for Sankai Juku, Toyota Art Management Lecture Director, Park Tower Art Program Advisor, President of Theater TV, Administrative Director of Tokyo International Festival of Performing Arts, and Director of Tokyo International Arts Festival. His long career has seen him work in Japan and overseas in performing arts programming and production, as well as operating cultural facilities, arts



management, projects connecting corporations with culture, and non-profit research. He is currently Chair of NPO Arts Network Japan, as well as an associate professor in the Department of Musical Creativity and the Environment at Tokyo University of the Arts.

事業報告詳細

Festival Activities

3-1 主催プログラム Main Program

主催プログラムでは、「境界を越えて、新しい人へ」をテーマに、 世界の舞台芸術シーンで大きな存在感を放つアーティストや、ア ジアシリーズとしてマレーシアから6組のアーティストを招聘。 さらに日本の舞台芸術シーンを牽引する演出家たちによる、国 境を越えたパートナーシップに基づく共同製作や、東日本大震 災の経験を経て生みだされた表現に目を向けた作品、池袋東口 エリアで展開した「まちなかパフォーマンスシリーズ」など、16 演目を上演した。



● 『フェスティバル FUKUSHIMA!

@池袋西口公園』 "Festival Fukushima! @Ikebukuro



5 [x / groove space] "x / groove space"



② 『Woodcutters ─ 伐採 ─』 "Woodcutters"



イデビアン・クルー 『シカク』 idevian crew "Blind Spot"



7 ドーレ・ホイヤーに捧ぐ 『人間の激情』『アフェクテ』『エフェクテ』 "Hommage à Dore Hoyer"



The theme for the Festival/Tokyo 2016 Main Program was "Beyond Borders."

The 16 productions featured artists and companies from Japan, Asia and across

the world. This included four productions from Malaysia as part of the latest

installment in the Asia Series project showcasing contemporary arts in Asia, as

well as leading figures in the Japanese performing arts presenting international

co-productions and performances inspired by the Fukushima disaster. The

Outdoor Performance Series was a new part of the program, comprising four

events taking place in unconventional spaces across the east Ikebkuro area.

3 北京発・カルチャーから見る現代中国 FM3 [Buddha Boxing] Contemporary China, as Seen in Beijing Culture FM3 "Buddha Boxing"



⑫ レクチャー編 『POLITIKO』 Lecture: "POLITIKO"

アジアシリーズ vol.3 マレーシア特集 Asia Series Vol.3: Malaysia

まちなかパフォーマンスシリーズ Outdoor Performance Series

14 『うたの木』

"Song Tree"

marebito theater company

"Performing Fukushima"



② 公演編 インスタントカフェ・ シアターカンパニー『NADIRAH』 Performance: The Instant Café Theatre Company "NADIRAH"

(B) 『ふくちゃんねる』



6 マレビトの会『福島を上演する』

● 公演編 [B.E.D. (Episode 5)] Performance: "B.E.D. (Episode 5)"







(15) ドキュントメント 『となり街の知らない踊り子』 DOCU(NT)MENT "The Unknown Dancer in the Neighboring Town"



16 チェルフィッチュ 『あなたが彼女にしてあげられることは何もない』 chelfitsch "There is Nothing You Can Do for Her'

①『フェスティバル FUKUSHIMA! @池袋西口公園』

総合ディレクション:プロジェクト FUKUSHIMA!+ 山岸清之進

"Festival Fukushima! @lkebukuro Nishiguchi Park" Direction: PROJECT FUKUSHIMA! + Seinoshin Yamagishi

池袋西口公園 2 日間/来場: 21.598 名 Ikebukuro Nishiguchi Park Days: 2 / Audience: 21,598

10/15 (Sat), 10/16 (Sun)

2011年の東日本大震災をきっかけに「FUKUSHIMA」をポジティブ な言葉に変えていこうと始動した「プロジェクト FUKUSHIMA!」と F/T が共にディレクションした『フェスティバル FUKUSHIMA! @池袋西口 公園』が F/T16 のオープニングとして 2 日間、開催された。2014 年 から毎年盆踊りや音楽ライブなどの賑わいを生み出してきた本企画も3 年目の2016年で最後の開催となった。

全国から布を集め、サポーターが縫い合わせた色鮮やかな大風呂敷 を敷き詰めた公園では、プロジェクト FUKUSHIMA! メンバーのアサノコ ウタが設計し、福島から運ばれてきた木造のやぐらが一際注目を集めた。

曲や振付がすべてオリジナルの盆踊りを生演奏で盛り上げたのは、ギ タリスト長見順をバンマスに迎えた「池袋盆 BAND」。一般から募った バンドメンバーは夏から練習を重ね、その音色は多くの人の心を掴んだ。

今回の祭りを作る一員として活躍した「盆踊り隊」「縫い隊」「音楽隊」 などのサポーターは、本番に備えて夏から活動を開始した。盆踊り隊は 昨年に続いて豊島区内外の盆踊り大会に参加し、オリジナルの「池袋西 口音頭」を広め、縫い隊は大風呂敷の修復やスタッフの目印となったサ コッシュ、会場装飾を作り、音楽隊は楽器だけでなくフライパンなどの 道具を使った即興演奏で今ここでしか生まれない音楽を生み出した。

3年の間に、この祭りに集う人々は増え、手と手を取り合って盆踊り の輪が広がるように、多種多様な人々の繋がりを生み出した。

池袋盆BAND、珍しいキノコ舞踊団、会津マスクワイア、DJフクタケ、ブラウンノー ズ、大谷能生、伊東篤宏、竜田一人、テニスコーツ 長見 順、岡地曙裕、近藤達郎、遠藤知絵、Sachiko M、大友良英、としま ななまる、 そめふくちゃん、えんちゃん、としまくん



PROJECT FUKUSHIMA! was started as an attempt to present Fukushima in a positive way after the 2011 disaster. This Ikebukuro version of its signature festival has been held as the opening event at F/T since 2014. Once again, a plaza in northwest Tokyo came alive with live music and Bon dancing for two days. A large cloth was laid on the ground of Ikebukuro Nishiguchi Park, stitched together by volunteers with materials collected from all over the country. PROJECT FUKUSHIMA! member Cohta Asano's wooden tower, transported from Fukushima to Ikebukuro for the event, also became a striking landmark. The original music and choreography for the Bon dance was played live by guitarist Jun Nagami and the Ikebukuro Bon Band, whose members were recruited from the general public and rehearsed throughout the summer.

The event was also assisted by the F/T volunteers, who helped prepare the Bon dance, stitching, and music over the summer. Following on from last year, the Bon dancers also participated in other Bon dance events in Toshima ward and beyond to pass on the especially written Bon song. The volunteers involved in the stitching work helped repair the cloth materials and make venue decorations and uniforms. Finally, the music team created unique music that could be played through improvising with instruments as well as everyday items such as frying pans.

Attendance had increased over the course of the three years. For this final occasion on which it would be held, lkebukuro was filled with all kinds of people joining hands to dance in circles in the traditional Bon style.

Ikebukuro Bon Band, Strange Kinoko Dance Company, Aizu Mass Choir, DJ Fukutake, Brown Nose, Yoshio Otani, Atsuhiro Ito, Kazuto Tatsuta, Tenniscoats, Jun Nagami, Akihiro Okachi, Tatsuo Kondo, Michiro Endo, Sachiko M, Otomo Yoshihide, Toshima mascots (Nanamaru, En-chan, Toshima-kun, Somefuku-chan)







② 『Woodcutters ─ 伐採 ─』

翻案・美術・照明・演出:クリスチャン・ルパ 原作:トーマス・ベルンハルト "Woodcutters"

Adapted, Stage Design, Lighting and Directed by Krystian Lupa Based on the novel by Thomas Bernhard 10/21 (Fri) – 10/23 (Sun) 東京芸術劇場 プレイハウス 全3ステージ/来場:1,097名 Tokyo Metropolitan Theatre (Playhouse)

Performances: 3 / Audience: 1,097

1980年代から現代のポーランド演劇を築いてきた演出家であり、20世紀ヨーロッパ最後の巨匠とも評されるクリスチャン・ルパの4時間20分の超大作。舞台化が困難とされる作家トーマス・ベルンハルトの小説を翻案・演出した本作は、自殺した女優の葬儀後に開かれた「アーティスティック・ディナー」会場が舞台。

招かれた芸術家たちは、いつ終わるとも知れぬ晩餐会で互いの不平 不満や自慢の応酬を繰り広げ、やがてアーティストの偽善性、国立劇場、 国家体制を痛烈に批判し始める。音楽・空間設計にも長けたルパは、 辛辣な言葉をラヴェルの「ボレロ」と共に過熱させ、まるでガラスボッ クスのような回転舞台と映像を巧みに用いて、登場人物の心理描写に 深みをもたらした。

偏った政治状況と理念を失った芸術に対してベルンハルトが抱いた嫌悪感は、国家が文化・芸術の価値観を押しつけ始めている現代ポーランドのみならず、画一的な価値観に傾倒している現代社会にも警鐘を鳴らした。

This mammoth production by Krystian Lupa, one of the giants of 20th-century European performing arts and a leading figure in Polish theatre since the 1980s, had a running of 4 hours and 20 minutes. An adaptation of a novel by Thomas Bernhard, whose work has long been considered unsuitable for the stage, it depicted an "artistic dinner" held after the funeral of an actress who killed herself and attended by people from the arts world. Over the course of the party these bohemians begin to exchange gripes about their discontents and complaints, in turn sharply criticizing the hypocrisy of artists, the national theatre, and the nation state itself. Lupa deftly employed music to accentuate the scene, escalating the acidic dialogue with Ravel's "Bolero," while the skillful use of video and a revolve stage that resembled a glass box enhanced the portrayal of the characters' psychology. Bernhard's disgust at political bias and the arts that have abandoned all principles transcended the situation in Poland today, where the state is forcing certain values on culture and the arts, to sound a warning to society the world over, which seems to be lurching toward a single mindset.

製作: ヴロツワフ・ポーランド劇場 特別協力: ポーランド広報文化センター、Propel Performing Arts & Media Co., Ltd. 共催: Culture.pl Produced by Polski Theatre in Wrocław Special cooperation from Instytut Polski w Tokio, Propel Performing Arts & Media Co., Ltd. Co-presented by Culture.pl







Photo: Jun Ishika



Photo: Jun Ishikawa

スペシャルトーク

登壇者:クリスチャン・ルパ モデレーター:鴻英良(演劇評論家)

Special Pre-Show Talk with Krystian Lupa

Moderator: Hidenaga Otori (theatre critic)

10/22 (Sat) 東京芸術劇場 プレイハウス ロビー 来場: 85 名 Tokyo Metropolitan Theatre (Playhouse Lobby) Audience: 85

初来日を果たしたクリスチャン・ルパが日本の観客と対話する場として公演2日目の開演前にスペシャルトークを実施した。前半はモデレーターの鴻が代表して質問し、ルパが生涯をかけてトーマス・ベルンハルトの作品に取り組んできた経緯や今回『伐採』を舞台化した理由について、現代ポーランドの社会状況や民主主義をめぐる諸問題などに言及しながら語られた。後半は客席から作品の中身に関する質問が多く寄せられ、ルパはそれらに対してひとつひとつ丁寧に答えていった。あらゆる質問に対して真摯に回答するその身振りからも、ルパにとって観客との対話が作品上演と並んで重要な行為であることが示された貴重な機会となった。

To commemorate his first tour to Japan, Krystian Lupa gave a special talk for local audiences prior to curtain-up on the second day of "Woodcutters." In the first half of the talk, theatre critic Hidenaga Otori asked Lupa about the trajectory of his career and his reasons for adapting



"Woodcutters" for the stage. Lupa touched on issues related to the social situation and democracy in Poland today. In the second half, audiences had the chance to ask the director questions about his work. Lupa's efforts to answer each question carefully and sincerely demonstrated how he treats dialogue with audiences as importantly as the staging of a performance itself.

F/T トーク 「トーマス・ベルンハルトとウィーン演劇」

講師:寺尾格(専修大学教授)

F/T Talks: Thomas Bernhard & Vienna Theatre

Guest Speaker: Itaru Terao (Senshu University)

Audience: 30

This talk featured a talk Itaru Terao, a specialist in

ドイツ・オーストリア演劇の専門家である寺尾格(専修大 学教授)を講師に招き、『Woodcutters — 伐採 —』の原 German and Austrian theatre at Senshu University. about the life and work of Thomas Bernhard, 作者トーマス・ベルンハルトの生涯と作品、同作の舞台となっ たウィーンの演劇事情に関する事前レクチャーを実施した。 whose novel "Woodcutters" was adapted by 1988 年にウィーン・ブルク劇場で初演された『ヘルデン Krystian Lupa and performed at F/T16, as well プラッツ』(クラウス・パイマン演出)は上演後たちまち大 as the theatre scene in Vienna, where Bernard's きなスキャンダルをもたらしたが、その背景やベルンハルト novel is set. When his play "Heldenplatz" was 作品の特徴である罵倒の語り口について戯曲および記録映 像を参照しながら解説が行われた。後半には『Woodcutters 一 伐採 一』に登場する人物と、そのモデルになった実在 の人物との対応関係にも話が及び、4時間20分にもわた



10/19 (Wed)

来場:30名

(Atelier East)

東京芸術劇場 アトリエイースト

Tokyo Metropolitan Theatre

premiered in 1988 at Vienna's Burgtheater by director Claus Peymann, it caused a scandal. Terao showed videos to help explain this background as well as the use of invective language that is one of the characteristics of Bernard's work. In the second half of his talk, Terao shared insights about the characters who appear in "Woodcutters" and the real-life figures on which they are based in order to prepare audiences for the mammoth 260-minute Lupa adaptation.

F/T トーク 「ポーランド演劇の最前線」

講師:グジェゴシュ・レスケ (アートプロデューサー)

る大作を観劇する上での背景知識を知ることができた。

F/T Talks: Cutting-edge Polish TheatreGuest Speaker: Grzegorz Reske (art producer)

10/20 (Thu) 東京芸術劇場 アトリエイースト 来場:21 名 Tokyo Metropolitan Theatre (Atelier East) Audience: 21

F/T15で実施した F/Tトーク「ポーランド演劇の現在形」の続編として、最も若い世代のポーランド演劇シーンを紹介するトークを実施した。講師がジェネラルプロデューサーを務める国際フェスティバル Konfrontacje Teatralneでは、国外から様々な演劇作品を招聘しながら(2016年は岡田利規・チェルフイッチュが参加した)、ポーランドの新進演出家特集も行っている。映像を用いながらルパの孫世代にあたる若手演出家の作品が紹介され、レパートリー制度を持つ公共劇場システムの中で様々な実験が行われていることが語られた。これら若手演出家の多くはルパが長く教鞭をとるクラクフ国立演劇大学で演劇を学んでおり、ポーランド演劇における彼の存在の大きさが改めて示された。

Following on from a talk at Festival/Tokyo 2015 on contemporary theatre in Poland, this talk introduced examples of up-and-coming Polish theatre practitioners.

The guest speaker, Grzegorz Reske, is the general producer at the international theatre festival Konfrontacje Teatralne, where his programming has included showcases of emerging Polish directors' work as well as



visits by many different overseas artists, such as Toshiki Okada (chelfitsch) in 2016. Reske used videos to present the work of directors from two generations after Krystian Lupa, along with introducing various experimental initiatives taking place in public theatre in Poland and its repertory system. Many of these young directors studied theatre at the State Higher School of Theatre in Kraków, where Lupa has long taught, demonstrating once again the important position he occupies in Polish theatre.

レクチャー 「クリスチャン・ルパ の演劇」

講師:ピョトル・ルツキ(演劇学者、ヴロツワフ・ポーランド劇場ドラマトゥルク)

Lecture: The Theatre of Krystian Lupa

Lecturer: Piotr Rudzki (theatre scholar, dramaturge for Polski Theatre in Wrocław)

8/30 (Tue) 駐日ポーランド共和国大使館 来場:81 名 Embassy of the Republic of Poland Audience: 81

F/T16 全プログラム発表記者会見の第2部として『Woodcutters 一 伐採 一』を製作したヴロツワフ・ポーランド劇場のドラマトゥルクによるクリスチャン・ルパの演劇に関するレクチャーを実施した。カントルとグロトフスキにならぶポーランド演劇三聖人のひとりであるルパが初めて日本で紹介されることへの喜びが語られたあと、ルパが俳優たちに求める「内的独白」や「即興可能なコンディション」といった考えが紹介された。続いて、ポーランド語の普通名詞でルパとは"ルーペ(拡大鏡)"を意味し、人々が知覚する世界に拡大鏡を当てて日常生活では意識化されない心理的な部分から登場人物が形成されていく、そうして観客は"認識の道具としての演劇"に誘われていく、といった内容が語られた。

As the second part of the F/T16 press conference announcing details of the festival program, this lecture on the work of Krystian Lupa was given by Piotr Rudzki, the dramaturge for Polski Theatre in Wrocław, which produced Lupa's "The Woodcutters." Rudzki started by expressing his delight that Lupa, who is one of the three greats of Polish theatre alongside



Kantor and Grotowski, was touring to Japan for the first time. He then introduced Lupa's use of inner monologue and improvisation with his actors. Drawing on the idea that Lupa's name in Polish means a magnifier (loupe), Rudzki explored how the director spotlights the world we can perceive around us and shapes his characters out of the psychological areas we are not conscious of on a daily basis. Lupa, he explained, invites audiences to experience theatre as a tool for consciousness.

共催: ポーランド広報文化センター 後援: 駐日ポーランド共和国大使館 Co-presented by Instytut Polski w Tokio Endorsed by Embassy of the Republic of Poland

3 イデビアン・クルー『シカク』

振付·演出: 井手茂太

idevian crew "Blind Spot"

Choreographed and Directed by Shigehiro Ide

10/21 (Fri) - 10/29 (Sat) にしすがも創造舎 全 10 ステージ/来場: 1,369 名 Nishi-Sugamo Arts Factory Performances: 10 / Audience: 1,369

Choreographer Shigehiro Ide is acclaimed for comically drawing on everyday movement

and human relations. This new dance work from Ide's group, idevian crew, fully harnessed

the school gymnasium space where it was performed to create a setting in the style of a

residential floor plan. The four bedrooms and communal space hosted varying kinds of

dance scenes: rhythmical unison in the communal space; violent dance when four dancers

gathered in one room; conversation in another. Interspersed with unique directing touches,

this novel dance work frequently triggered laughter from the audience. While the structure

and choreography stayed largely the same, it was performed with two teams of four male or

female dancers, and many people returned to see both versions. The music by ASA-CHANG

& Junray added a diverse soundscape ranging from pop and rhythmical notes to everyday

sounds, which were deftly utilized at various points to produce synergy with the dance.

日常にある動きや人間関係をユーモラスに切り取る振付で、多方面から評価 を得ている井手茂太が主宰するイデビアン・クルーの新作を上演。学校の体育 館という自由度の高い空間を利用し、間取り図を思わせる4つの部屋と共用ス ペースを有する住居を舞台とした。共用スペースでのリズム溢れるユニゾンや、 ひとつの部屋で4人が密集して行う激しいダンス、会話を繰り広げる場面など、 この舞台ならではの演出がちりばめられ、時には会場から笑い声が聞こえた。 構成と振付はほぼ同じでありながら、男女4人ずつのダブルキャストによって 上演されたため、別バージョンも見ようと、再度足を運ぶ観客も多かった。

音楽は ASA-CHANG &巡礼により全曲が本作のために書き下ろされた。リ ズミカルでポップな音楽から、生活音をモチーフにしたものまで、様々な楽曲が 作中で使用され、作品にシナジーを生み出した。

製作: days 共同製作: フェスティバル/トーキョー 主催: days、フェスティバル/トーキョー 助成: 芸術文化振興基金 Produced by days Co-produced by Festival/Tokyo Presented by days, Festival/Tokyo Supported by Japan Arts Fund







4 パク・グニョン×南山芸術センター『哀れ、兵士』

作・演出:パク・グニョン(劇団コルモッキル)

Kunhyung Park + Namsan Arts Center "All the Soldiers are Pathetic" Written and Directed by Kunhyung Park (Theatre Company Golmokil)

10/27 (Thu) - 10/30 (Sun) あうるすぽっと 全 4 ステージ/来場:653 名 Owlspot Theater Performances: 4 / Audience: 653

劇団名である「路地(コルモッキル)」に生きる庶民の視点を通し、現代社会の諸問 題に鋭く迫る劇作・演出家パク・グニョン。近年、文化検閲の存在で波紋が広がる韓国で、 元大統領をめぐる風刺表現をきつかけに助成金申請の辞退を強いられるなど、国家と 芸術表現の間で格闘する彼が2016年3月に発表した話題作をF/Tで紹介した。

船のデッキを連想させる舞台美術で、脱走兵、朝鮮人特攻隊員、イラク駐留食品業者、 哨戒艦沈没等、実際に起きた事件もベースにしながら時代や場所が異なる4つの兵士 のエピソードを交差させ、国家に翻弄されて生きた兵士の軌跡を描いた。タイトルの「哀 れ」は兵士だけに向けられたものではなく、社会に生きるすべての国民もまた兵士であ り、彼らもまた哀れな存在であると示唆した。戦争や暴力など近代国家の諸問題に晒 される兵士たちの魂の叫びは韓国国内に留まらず、今を生きる私たちに国家体制やこれ からの社会を見つめ直す機会を与えるものとなった。

As can be seen from the name of his theatre company, Golmokil (literally meaning "alleyway"), the playwright and director Kunhyung Park confronts the issues of contemporary society from the perspectives of ordinary people. Controversy has raged recently in South Korea over apparent censorship in the arts. Park, too, has run into conflict with the state over freedom of expression, and was forced to withdraw a subsidy application after he made a satire about a former president.

This play, premiered in March 2016 to much attention, was performed on a set that resembled the deck of a ship. Inspired by real-life incidents, the narrative interwove four episodes set in different periods and locations, involving an army desert, Koreans recruited as kamikaze pilots, Korean contractors working for the US military in Iraq, and the crew of a patrol boat that sank. What all the stories shared was a depiction of soldiers tossed about at the whim of the state. The title, though, suggests not only pathos about the plights of the soldiers, but also about everyone in society. The cries of the souls of these soldiers exposed to warfare, violence and the problems of the modern nation state transcended the Korean setting, becoming an opportunity for Tokyo audiences to re-examine the nation state they now live in as well as the future of their society.

共同製作:ソウル文化財団南山芸術センター、劇団コルモッキル Co-produced by Namsan Arts Center, Theatre Company Golmokil







5 [x / groove space]

振付・構成:セバスチャン・マティアス

"x / groove space"

Choreographed and Conceived by Sebastian Matthias

11/3 (Thu) - 11/6 (Sun) 東京芸術劇場 シアターイースト 全5ステージ/来場:315名 **Tokyo Metropolitan Theatre**

(Theatre Fast)

Performances: 5 / Audience: 315

都市とその居住者が生み出す環境や集団性を研究する「groove space」シリーズを手掛け るドイツの振付家セバスチャン・マティアス。本作は彼が2014年から行っているシリーズの 最新作となる。3人の日本人アーティストを迎え、東京とドイツ国内でも日本人居住者の多い デュッセルドルフの2都市をリサーチの拠点にした国際共同製作作品である。2016年4月 に東京でクリエイションを行い、6月にデュッセルドルフで世界初演を行った。場内は蛍光灯 を使用した伊東篤宏の音と光のインスタレーションと、重力とその加速のバランスで回転し、 人が触れる事で変速する瀬山葉子の装置で構成された。そこに加わる岩井優による清掃をモ チーフとしたビデオ・インスタレーションとアクティビティ、そして観客の間をぬい、時に観客 とコミュニケーションを図りながら踊るダンサー。いくつもの要素が介入し、観客の存在とそ の反応をも作品の一部として取り込み、劇場内は都市の縮図を感じさせる環境に変貌した。こ の作品で得る体感は観客と演者との関係性、コミュニティの在り方を見つめ直す契機となった。

In the "groove space" series, German choreographer Sebastian Matthias has explored the nature of groups and the environments created by a city and its residents. For this latest entry in the series, Matthias was joined by three Japanese collaborators. The international co-production was based on research in Tokyo and Düsseldorf, the city with the largest number of Japanese residents in Germany. Following creative development in Tokyo in April 2016, it premiered in June in Düsseldorf before coming to Tokyo The space featured Atsuhiro Ito's sound and light installation along with Yoko Seyama's kinetic sculptures, which would turn with the force of gravity but also moved when touched by the audience. Masaru lwai contributed a video installation and performance themed around "cleaning." Dancers wove gaps between the audience or facilitated communication with them. Various elements intervened, incorporating the presence of the audience and their reactions into the performance. The theatre space gradually transformed into an environment that conveyed the sense of a city in miniature. Experiencing the performance became an opportunity to re-examine the relationship between audience and performer, and the nature of community.

製作:セパスチャン・マティアス 共同製作:タンツハウスNRW、フェスティバル/トーキョー、東京ドイツ文化センター、ベルリン国際ダンスフェスティバル「タンツ・イン・アウグスト2016」、ゾフィーエンゼーレ 共催:東京ドイツ文化センター 後援:ドイツ達邦共和国大使館 Producer: Sebastian Matthias Co-produced by tandhaus nw. FestivalTokyo, Goethe-Institut Tokyo, Tanz im August 2016 and Sophiensaele Produced in association with Goethe-Institut Endorsed by Embassy of the Federal Republic of Germany in Japa Supported by the NATIONALES PETFORMANCE NETZ (NPN) Coproduction Fund for Pance, which is funded by Federal Government Commissioner for Culture and the Media on the basis of a decision by the German Bundesdera







⑥ マレビトの会『福島を上演する』

作・演出:マレビトの会

marebito theater company "Performing Fukushima"

Written and Directed by marebito theater company

11/17 (Thu) - 11/20 (Sun) にしすがも創造舎 全 4 ステージ/来場: 750 名 Nishi-Sugamo Arts Factory Performances: 4 / Audience: 750

The work of marebito theater company has emphasized collaborative approaches to creating theatre.

It has partnered with Festival/Tokyo on long-term projects, appearing at the festival four times since

2012. For this play, the members of the company set out to examine a city not through unusual events

or history, but by portraying the drama intrinsic to the ebb and flow of everyday life. After previously

using the same style to create a portrait of Nagasaki, the company now turned to Fukushima. Five

writers, including the company leader Masataka Matsuda, visited Fukushima to conduct field research.

They then wrote 21 short plays based on their experiences. Over the course of four days, each offering

a set of different plays, audiences observed transitory scenes from the city. Performed in a school

gymnasium, the actors' bodies and the play scripts built up a series of incidents from which the present

of the city that is Fukushima emerged. These performances offered a glimpse into the unique possibility

of theatre that is neither a mere imitation of reality nor simply the staging of a text.

集団創作に重きを置き、その可能性を模索してきたマレビトの会が、新た に F/T と共同で進める長期プロジェクトを始動し、F/T12 以来 4 度目の登 場となった。本作は、ひとつの都市を取り上げて、そこで起きた特別な事象 や歴史を追うのではなく「日常に流れる時間に内在するドラマ」を描いてき た彼らが、その舞台を福島に移した作品だ。代表の松田正隆をはじめ5人 の作者が現地へと取材に赴き、その体験をもとに 21 篇の戯曲を執筆。4日 間に渡り各回異なる戯曲構成で行なわれた本作で観客は、一度しか行われ ない上演を通して、街の一瞬のうつろいを目撃した。体育館をそのまま使用 した舞台には、俳優の身体と戯曲によって複数の出来事が積み重ねられ、福 島という都市の現在の時間が立ち現れた。現実の模倣でも、単なるテキスト の上演でもない、「演劇」だけが持つ可能性を感じさせる公演となった。

企画:マレビトの会 主催:フェスティバル/トーキョー、一般社団法人マレビト Planned by marebito theater company Presented by Festival/Tokyo, marebito





▼ ドーレ・ホイヤーに捧ぐ『人間の激情』『アフェクテ』『エフェクテ』

構成・振付:スザンネ・リンケ "Hommage à Dore Hoyer"

Conceived and Choreographed by Susanne Linke

12/9 (Fri) - 12/11 (Sun) あうるすぽっと 全 4 ステージ/来場: 778 名 **Owlspot Theater**

Performances: 4 / Audience: 778

ドイツ表現主義舞踊の創始者マリー・ヴィグマンに師事し、ドイツを代表するダ ンサー・振付家のスザンネ・リンケが 16 年ぶりに来日。自身がダンス部門の芸 術監督を務めているトリアー市立劇場で、これまでリンケが上演してきたドーレ・ ホイヤーにまつわる3作品が初めてまとめて上演され、その来日公演が行われた。

1 作品目では、ドイツ表現主義舞踊の重要なダンサーのひとりであるドーレ・ホ イヤー振付ソロ作品『人間の激情』が再現され、貴重なホイヤー本人の映像も効 果的に取り入れられた。またこの作品から着想を得てリンケにより振付された2 つのデュオ作品が上演された。2作品目の『アフェクテ』では動物の声や銃声な ども用い、情熱的な男女の愛を描き、『エフェクテ』では無機的な空間でありなが らも、自ずとあふれ出る感情が表現された。自身や先人が築いてきた歴史や記憶 のアーカイブ的な公演となり、それを次世代へ継承していく貴重な機会となった。

製作:トリアー市立劇場 共同製作:ラボーアグラス・ベルリン Produced by Theater Trier Co-produced by laborgras Berlin

A leading figure in contemporary German dance and a former disciple of expressionist dance pioneer Mary Wigman, Susanne Linke returned to Japan for the first time in 16 years with a staging of three previous dance works linked to the important German expressionist choreographer Dore Hoyer.

Originally performed together at Theater Trier, where Linke is now artistic director of dance, the first work was a recreation of Dore Hoyer's solo piece "Afectos Humanos," and made effective use of video footage of Hoyer herself. The other two pieces were duets choreographed by Linke, taking inspiration from "Afectos Humanos." "Affekte" incorporated the voices of animals and gunfire in a portrait of the passionate love between a man and a woman. "Effekte" unfolded in an inorganic space vet expressed emotions that overflowed naturally. The set of performances formed an archive of the history and memories built up by Linke and her predecessor, while also serving as a valuable opportunity to pass this on to the next generation.







にしすがも創造舎のフィナーレ 連続シンポジウム [創造拠点の 12 年]

第3回「これからのアートファクトリーを考える」

登壇者:遠藤幹子(建築家、Mother Architecture 代表理事)、中野成樹(演出家、中野 成樹+フランケンズ主宰)、水江未来(アニメーション作家、MIRAI FILM 代表)

Nishi-Sugamo Arts Factory Finale Symposium Series:

12 Years of Creative Activities No.3 The Future Arts Factory

Guest Speakers: Mikiko Endo (architect), Shigeki Nakano (director), Mirai Mizue (animator)

10/15 (Sat) にしすがも創造舎 来場: 40 名 Nishi-Sugamo Arts Factory Audience: 40

2016年12月をもって事業をクローズしたにしすがも創造舎では、これまでの成果と今 後の廃校活用における課題などを話し合う連続シンポジウムを7月~12月に開催した。 F/T16 の開幕日に合わせて実施した第3回には、にしすがも創造舎の代表的なプロジェクト に関わった3名のアーティストが登壇し、多角的な議論を展開した。建築家の遠藤幹子は学 校建築ならではの効用や運営体制の参考となるような海外の施設を紹介。アニメーション作 家の水江未来は、若手アーティストをサポートする仕組みやアーティストが場づくりに関わる可 能性について言及した。演出家の中野成樹はにしすがも創造舎で多くの舞台作品を創作した 経験から、廃校を活用したアートファクトリーの未来像について語った。自治体職員、文化芸 術関係者、アーティストほか多様な観客が参加し、熱心に議論に耳を傾ける姿が見受けられた。 To mark the closure of Nishi-Sugamo Arts Factory in December 2016, a series of symposia were held from July to December about the achievements of the venue and future uses of former school facilities. This third symposium in the series was held on the opening day of F/T16 and welcomed three speakers who had been involved with some of Nishi-Sugamo Arts Factory's representative projects. Architect Mikiko Endo introduced examples of overseas facilities that operated and employed school buildings in effective ways. The animator Mirai Mizue discussed the potential of artist-run spaces and support platforms for young artists. Theatre director Shigeki Nakano drew on his long experience of working at Nishi-Sugamo Arts Factory to discuss a future vision for arts venues based at former schools. The content of the symposium was enthusiastically received by audience, which included local government employees, people from the arts and culture industry, and artists.

主催:豊島区 企画・製作: NPO法人アートネットワーク・ジャパン、NPO法人芸術家と子どもたち Presented by Toshima City Planned and produced by NPO Arts Network Japan (NPO-ANJ), NPO Children Meet Artists







北京発・カルチャーから見る現代中国

Contemporary China, as Seen in Beijing Culture

8 FM3 Buddha Boxing

演出: FM3

FM3 "Buddha Boxing"

Directed by FM3

12/2 (Fri), 12/3 (Sat) あうるすぼっと ホワイエ 全 2 ステージ/来場: 164 名 Owlspot Theater (Foyer) Performances: 2 / Audience: 164

ジャン・ジエンとラオ・チャオの 2 人からなる FM3。彼らによる 「ブッダマシーン」を使ってのライブパフォーマンスが日本に初上陸し た。FM3とは、空間と融和し、聴く人をリラックスさせる音楽、アンビ エントミュージックに、中国の伝統音楽を織り交ぜた作品を作り出す現代 音楽ユニット。彼らの製作した手のひら大のループ再生機ブッダマシー ンは、自動で念仏を唱えてくれる電子仏具「唱佛機」に着想を得たもの で、念仏ではなく、彼らの音楽が何曲も収録されている。座卓を挟んで 向かい合う2人が、そのブッダマシーンを卓上にいくつも並べ、音を出す、 倒す、動かす、ピッチを変える、というコントロールを行なう。それぞれ の音が重なり合ったかと思うと、ふとした瞬間にずれてはまた重なり、新 しい響きが生まれ続ける。穏やかに変化し続ける音と映像が会場を包み 込み、観客を日本の文化圏では体験できない瞑想の世界へと誘った。

FM3 is the Beijing-based music duo Christiaan Virant and Jian Zhang. This was the first live performance in Japan of the Buddha Machine designed and produced by the duo. FM3 creates harmonizing ambient music that interweaves elements of traditional Chinese music. The Buddha Machine is an original, palm-sized loop player that updates the Digital Buddhist Jukebox. In the performance Vibrant and Zhang sat facing each other with several Buddha Machines lined up on the table. They would control the sound and pitch by moving the machines or turning them over. This process of overlapping sounds generated layer after layer of new resonances that changed from moment to moment. The venue was enveloped with a gently shifting sound and video, inviting the audience into an alien meditative world.







F/T トーク 「『知日』が紐解く若者文化事情」

登壇者:スー・ジン

F/T Talks: Youth Culture, as Seen in Zhi Japan ("Knowing Japan")

Guest Speaker: Jing Su

12/4 (Sun) あうるすぽっと ホワイエ 来場:59 名 Owlspot Theater (Fover) Audience: 59

2011年に創刊され、日本の文化、芸術、流行を紹介するカルチャー誌として 中国で人気を集めている『知日』。これまでに「猫」「漫画」「妖怪」「鉄道」「断 捨離」「お笑い」など、毎号ひとつのテーマを取り上げ、現在40号まで発売され ている。本トークでは、本誌の創刊者であり元編集長であるスー・ジンをゲストに、 創刊の経緯や読者である中国の若者の現状、出版事情について話を聞いた。

はじめに『知日』の概要と、創刊の経緯について説明。自身の日本文化への 関心の高さを語った。各号のテーマ決めの過程や取材時の印象的なエピソードを 紹介し、そこから自身が感じたことについても言及。また、中国の出版業界の変 化と傾向については、出版社の民営化やインターネットの影響について語った。 質疑応答では、書籍と SNS の関係性、紙面デザインの重要性、出版における検 関の過程にも触れ、中国出版業界のリアルな一面を垣間見ることができた。



readers. Previous issues have explored such diverse topics as cats, manga, yokai (supernatural creatures), railways, danshari (anti-materialism), comedy, the Yakuza, and Mt Fuji. Each issue has a different theme and 40 have been published so far. This talk featured founder and former editor-in-chief Jing Su, who discussed the young people in China who are the magazine's main readership as well as publishing and other trends in China. Jing Su first gave an overview of Zhi Japan and how it came to be founded as well as his own passion for Japanese culture. He then introduced the process for deciding the theme of each issue and some anecdotes about writing the articles. He also discussed the influence of the Internet and the privatization of publishing houses on the publishing industry in China. Answering questions from the audience, Jing Su also described the relationship between print media and social media, the importance of cover design, and censorship in publishing. As such, the event gave audiences in Tokyo a glimpse into the reality of publishing in China today.

Launched in 2011, Zhi Japan ("Knowing Japan") is a monthly magazine in China that introduces Japan to Chinese







アジアシリーズ vol.3 マレーシア特集

Asia Series Vol.3: Malaysia

F/T14 から開始したアジア地域から毎年1カ国を選定し、その国の舞台芸術を中心とするアー トを特集するアジアシリーズ。本年度はマレー系、中華系、インド系住民などで構成される多民 族国家、マレーシアを特集。マレーシアにおけるアートプロジェクトを中心に紹介するトークセッ ションから始まり、同時代の演劇、パフォーマンスを紹介する「公演編」、ディスカッションやゲー ムを通じてマレーシアの社会、文化を伝える「レクチャー編」からなるプログラムを開催。同 国のリアルな日常や葛藤を、さまざまなバックグラウンドを持つアーティストが描く作品を通じて、 言語、宗教といった境界を越え、多様性のあり方とは何か、観客に深く問いかけた。

Launched at F/T14, the Asia Series selects a different nation in Asia each year and showcases its performing arts scene. For F/T16, the series focused on Malaysia, which is a melting pot of ethnicities such as Malay, Chinese and Indian. The showcase was divided into two programs: performances that introduced contemporary theatre and dance; and discussion events that conveyed Malaysian society and culture through art and design projects. The four productions featured were each created by artists from differing backgrounds, adopting diverging approaches to how to interpret the complex everyday landscape of Malaysia. Audiences explored the nature of diversity of language, religion and ethnicity that goes beyond borders.

共催: 国際交流基金アジアセンター

Co-organized by the Japan Foundation Asia Center

② 公演編 インスタントカフェ・ シアターカンパニー『NADIRAH』 全3ステージ/来場:348名

作:アルフィアン・サアット 演出:ジョー・クカサス

Performance: The Instant Café Theatre Company "NADIRAH" Written by Alfian Sa'at

Directed by Jo Kukathas

11/11 (Fri) - 11/13 (Sun) にしすがも創造舎 Nishi-Sugamo Arts Factory Performances: 3 Audience: 348



マレーシアの舞台芸術シーンを牽引するジョー・クカサス率いるインスタントカフェ・シアターカンパニーと、シンガポール出身の 新進気鋭の劇作家アルフィアン・サアットのコラボレーション作品『NADIRAH』を招聘。本作は、ヤスミン・アフマドの映画「ムア ラフ 改心」に触発され執筆された。シンガポールの大学でムスリム団体の副代表をつとめるナディラと、結婚を機にイスラム教に改 宗した母・サヒラ。ある日、母がキリスト教徒の男性と再婚すると言い出し、ナディラは愛と信念の狭間で葛藤する。舞台上ではマレー 語、英語が飛び交い、多民族国家マレーシア、シンガポールでの日常の風景が映し出される。信仰、改宗、イスラム社会といった問 題が複雑に絡み合いながら、異なる宗教や価値観とどう向き合うか、愛、赦しという普遍的なテーマを、笑いを交え軽やかに描いた。

Produced by Jo Kukathas's The Instant Café Theatre Company, a leading figure in the local performing arts scene in Malaysia, and written by Alfian Sa'at, an up-and-coming playwright from Singapore, "NADIRAH" was inspired by Yasmin Ahmad's film "Muallaf" (The Convert). The play tells the story of the eponymous student in Singapore, who is vice president of her university's Muslim society, and her mother, who converted to Islam when she married. When her mother announces she wants to remarry a Christian, Nadirah finds herself caught in a conflict between love and faith. Performed in a mixture of Malay and English, the production intricately reflected the multiculturalism of Malaysia and Singapore. Against this complex backdrop of religious issues in those countries, the play deftly wove a universal, at times comedic tale of love, forgiveness, and reconciliation with different creeds and values.





① 公演編 『B.E.D. (Episode 5)』

構成・演出・振付:リー・レンシン Performance: "B.E.D. (Episode 5)"

Conceived, Directed and Choreographed by Ren Xin Lee

11/12 (Sat), 11/13 (Sun) 江東区各所 (受付場所:SAKuRA GALLERY) 全 4 ステージ/来場: 136 名

Koto ward

(Reception: SAKuRA Gallerv)

Performances: 4 / Audience: 136

マレーシアを拠点に活動する若手振付家、リー・レンシン。寝具であるマットレスをパフォーマンスに 取り入れる点が特徴的な「B.E.D.」シリーズの最新作が、森下スタジオでの 2 週間の滞在を経て創作さ れた。参加者は、街の中でのパフォーマンスを撮影した映像作品を鑑賞した後、実際に映像内の道を辿 り、会場へ。その中を4つのエリアに分け、その機能やイメージをもとに4人のダンサーがマットレス に様々なアプローチを仕掛ける。個人の空間、コミュニケーションのツール、崩れやすい建造物など、次々 に印象を変えるマットレスに合わせ、参加者も時には近づき、時には逃げるように鑑賞した。ダンサー、 参加者、マットレスの、常に変化し続ける関係性が、それぞれに違った体験を与える作品となった。

Ren Xin Lee is a dancer and choreographer based in Malaysia. For the latest entry in her "B.E.D." series, which incorporates mattresses into the performance, she spent two weeks creating the work at Morishita Studio. The audience first watched a video of an outdoor performance, before taking the same path as featured in the footage to arrive at the venue. At the venue, the space was divided into four areas where a quartet of dancers used mattresses in different ways based on certain functions and images. As the mattresses shifted between a series of motifs (a personal space, a communication tool, an easily collapsing building), the audience watched while sometimes moving closer, sometimes drawing away. The constantly changing relationship between the dancers, audience and mattresses created a multi-faceted set of differing theatrical experiences.







① レクチャー編 ASWARA - マレーシア 国立芸術文化遺産大学『BONDINGS』

コンセプト: BONDINGS クリエイティブチーム 作:スリ・リウ 講師・演出:ウォン・オイミン Lecture: ASWARA (National Academy of Arts, Culture and Heritage) "BONDINGS" Conceived by the "BONDINGS" Creative Team

Written by Suri Liu

Lecturer, Director: Oi Min Wong

森下スタジオ 全3回/来場:171名 Morishita Studio Lectures: 3 Audience: 171

11/4 (Fri) - 11/6 (Sun)







バドミントンなどそれぞれの民族を象徴するスポーツを用い、民族をめぐる社会的分断、家族の絆や愛を描いた。作品の実演後には、ウォンによるマレーシア 社会や文化についてのレクチャーを行い、参加者からの質疑応答を交えながら、同国の基礎知識を知るとともに、民族問題の現状や歴史について理解を深めた。 This new play was written by Suri Liu and directed by Oi Min Wong, who teaches at ASWARA (National Academy of Arts, Culture

ASWARAで教鞭をとる演出家ウォン・オイミンが中心となり、脚本に若手作家スリ・リウを迎えた新作。民族間の偏見の壁を取り払いたいというコンセプト

のもと、マレー系、中華系、インド系の3民族の俳優を起用し、マレー語、中国語、タミル語、英語の多言語で演じられた。物語の舞台は様々な民族が暮らす 団地。立ち退きを迫られることになった彼らは、民族や世代を越えた「ピースレンジャーズ」を結成し、自分たちの土地を守るために立ち上がる。サッカー、

and Heritage). Using a cast comprising actors from three ethnicities (Malay, Chinese and India) to represent the theme of breaking down the barriers of ethnic prejudice, it was performed in Malay, Chinese, Tamil and English. The story unfolded in an apartment complex where residents of various ethnicities live. Told they have to leave, the people come together across generations and ethnicities to form the Peace Rangers in order to protect their land. Employing sports such as soccer and badminton to symbolize the different ethnic groups, the play was a portrait of family bonds and love as well as social divisions related to ethnicity. After the performances, Oi Min Wong gave a lecture on Malaysian society and culture, and answered guestions. In this way, local audiences could deepen their understanding of Malaysia, including the history and current status of issues related to ethnicity.

レクチャー編 『POLITIKO』

講師・コンセプト:ムン・カオ Lecture: "POLITIKO" Lecturer, Concept: Mun Kao 11/8 (Tue) - 11/12 (Sat) 森下スタジオ 全5回/来場:103名 Morishita Studio Lectures: 5 Audience: 103



マレーシアで活動するクリエイター、ムン・カオが2013年に作成したカードゲーム「POLITIKO」。マレーシアの政治状況を反映した内容で、プレイヤーそれぞ れが政党となり、有権者を奪い勝敗を競う。実際にある政党や、民族、居住地、政治的立場といった有権者の人口比率に基づいて作られている点が特徴である。 本レクチャーは二部構成で実施した。初めに、ムン・カオによるブレゼンテーションでルール説明をし、マレーシアの成り立ちや政治、多民族についての解説が なされた。その後のプレイタイムでは、5~6名のグループに分かれて実施。カードを手に取り、ルールブック片手に遊ぶことで、マレーシアの社会・政治問題へ理 解を深めるだけでなく、民主主義や選挙制度そのものを改めて考えるきつかけとなった。なお、今回のレクチャーに際して、日本語翻訳版カードを製作し、配布した。

Malaysian designer and artist Mun Kao created this card game in 2013. Themed around the complex political landscape in Malaysia, players become different parties and compete to win voters. The game is based on actual political parties and groups of voters (ethnicities, locations, political positions) in proportion to the population of Malaysia. The event was divided into two parts. Mun Kao first gave a presentation about the rules of the game, explaining some of the background behind the politics and ethnic groups in Malaysia. In the second half, audiences were separated into groups of 5-6 people. With cards and rulebooks in hand, the players could then explore the world of Malaysian society and politics through the game. It also provided an opportunity to think generally about the nature of democracy and election systems. A Japanese-language version of the cards was produced especially for the event.



F/Tトーク 「多民族国家マレーシアにおけるアートプロジェクト」

登壇者:ファイルズ・スレイマン、ロスリシャム・イスマイル (イセ) 聞き手: 小川 希 (Art Center Ongoing 代表、TERATOTERA ディレクター) F/T Talks: Art Projects in Multi-Ethnic Malaysia

Guest Speakers: Fairuz Sulaiman, Roslisham Ismail (Ise) Moderator: Nozomu Ogawa (Art Center Ongoing, TERATOTERA)

10/22 (Sat) 東京芸術劇場 アトリエイースト 来場:46名 Tokyo Metropolitan Theatre (Atelier East) Audience: 46



マレーシア国内の様々な地域で先駆的なアートプロジェクトを展開するファイルズ・スレイマンと、ロスリシャム・イ スマイル(イセ)の若手アーティスト2名を招き、トークを開催した。前半では、スレイマンがマレーシアの伝統的な 影絵を現代的にアレンジした作品などについて語り、イセは代表作であるマレーシアの家庭に伝わる料理や伝統を保 存する「Cookbook」などのアートプロジェクトを紹介した。

後半ではArt Center Ongoingの代表・小川希を聞き手にむかえ、「アートは社会の役に立っているのか?コミュニティ に何か変化をもたらしているのか?」をテーマにディスカッションを行った。マレーシア国内での問題点や、アジアの 近隣諸国の状況など、それぞれのアーティストの考察を交え、同国の状況を知り理解を深める貴重な機会となった。

This talk featured the multimedia and multidisciplinary artists Fairuz Sulaiman and Roslisham Ismail (Ise), who are both active in different ways in Malaysia. In the first half, Sulaiman discussed his work adapting traditional Malaysian shadow puppetry in a modern style, while Ismail introduced examples of his art projects, including Cookbook, which preserves Malaysian home cooking recipes and customs. The second half brought in Nozomu Ogawa, who heads Art Center Ongoing in Tokyo, to moderate a discussion about the role of art in society and the changes art can bring to communities. The event provided an excellent opportunity to hear the opinions of the two artists and learn about issues in Malavsia and other Asian nations in the region.

まちなかパフォーマンスシリーズ

Outdoor Performance Series

これまで演劇やダンスに触れることがなかった観客にも足を運んでもらえるよう、劇場外の場所を会場にしたパフォーマンスを企画しシリーズ化を 試みた。これまでに F/T が培ってきた屋外での公演のノウハウを活かした形で実施した今年度は、2016 年 4 月にオープンした南池袋公園内のカフェ・ レストラン Racines FARM to PARK、豊島区庁舎 10 階「豊島の森」、あうるすぼっとホワイエなどの公共空間を舞台にして、演劇・ダンス 4 作品 を上演した。今後も継続して、多種多様なアーティストがパフォーマンスできる場として実施していく予定である。

®『ふくちゃんねる』

作・演出・出演:福田 毅

"Channel Fuku"

Written, Directed and Performed by Takeshi Fukuda

10/27 (Thu) - 10/30 (Sun) 南池袋公園内 Racines FARM to PARK 全8ステージ/来場:197名 Racines FARM to PARK (Minami Ikebukuro Park) Performances: 8 Audience: 197

これまでにさまざまな題材を用い、独自のユーモアを交えてソロパフォーマンスを創作してきた俳優・ 福田毅の新作。本公演は南池袋公園内にあるカフェ・レストラン Racines FARM to PARK で行なわれた。 「通信販売」をテーマに、ラシーヌ作『フェードル』、ゴルドーニ作『珈琲店』、ソートン・ワイルダー作『わ が町』、三島由紀夫作『卒塔婆小町』などを題材にした架空の商品をテレビ番組で紹介するように芝居 を展開。観客は軽食を楽しみながら、福田が紹介する商品とその世界観を味わうことが出来た。絵巻物 風の商品を手に、福田がカフェ内をゆったりと移動することで、観客とのやりとりも演出の一部になった。 通信販売という形式に独自の寓話性や物語性を注入し、演劇の可能性を拡張させた。

The actor Takeshi Fukuda creates his own solo performances that apply a unique sense of humor to a wide range of subject matters. This performance took place at Racines FARM to PARK, a caferestaurant located inside Minami Ikebukuro Park. Themed around home shopping, Fukuda's highly original play saw him present a series of fictional products inspired by various works of literature, including Racine's "Phèdre," Goldoni's "La bottega del caffè" (The Coffee Shop), Thorton Wilder's "Our Town," and one of Yukio Mishima's modern Noh plays. As the audience enjoyed light snacks, Fukuda brought the world of these products to life on his "TV channel." With something that resembled a picture scroll in his hand, Fukuda moved around the cafe incorporating his interactions with the audience into the performance. By injecting a distinct fairy-tale element and narrative into the format of TV shopping, he suggested new possibilities for theatre.

特別協力: Racines FARM to PARK Special cooperation from Racines FARM to PARK







4 『うたの木』

森川弘和 (振付·出演)×村上 渉 (振付·出演)×吉田省念 (音楽·出演)

Hirokazu Morikawa (choreographer, performer) + Wataru Murakami (choreographer, performer) + Shonen Yoshida (music)

11/10 (Thu) - 11/13 (Sun) 豊島区庁舎 10 階 豊島の森 全8ステージ/来場:264名 **Toshima City Office** (10F Toshima Forest) Performances: 8 Audience: 264

振付家・ダンサーの森川弘和と村上渉、音楽家の吉田省念の3名による新作のダンス。タイトルの「う たの木」は、鳥が鳴く、風で木々が揺れるといった自然と、3人のパフォーマンスが重なることを意味する。 吉田の演奏するチェロ、鉄琴、アコースティックギターなどの音楽を軸に、森川と村上による動物の動き、 ゲームや料理などを想起させる動きでユーモアと即興性を交えながら構成された。会場は豊島区庁舎の 10 階にある庭園「豊島の森」。木々や川などの人工的な自然と、高層ビルや東京の風景、さらに天候 などの偶発性も演出に取り込み、サイトスペシフィックに仕上がったダンス作品は、多くの観客の胸に刻 まれた。

This new dance work was created by the choreographers and dancers Hirokazu Morikawa and Wataru Murakami with the musician Shonen Yoshida. The title refers to nature, where bird calls can be heard in the rustling trees, as well as the layering of the three creators' performance. Centering on the music played live by Yoshida on cello, metallophone and acoustic quitar, the movements of Morikawa and Murkami in this humorous and improvisational performance evoked the movements of animals or even games or cooking. The venue was Toshima Forest, a garden on the tenth floor of Toshima City Office. The setting's artificial nature of trees and stream against a backdrop of skyscrapers and the Tokyo landscape were incorporated into the performance along with elements of chance such as the weather, making for a site-specific dance piece that left a striking impression on many





This series of events attempted to take performances out of conventional theatre spaces so that audiences could enjoy theatre and dance in new kinds of locations. Building on F/T's long experience with outdoor performances and events, the program featured four theatre and dance works at three distinct venues: the caferestaurant Racines FARM to PARK, which opened in Minami Ikebukuro Park in April 2016; Toshima Forest, which is on the tenth floor of Toshima City Office; and the foyer of Owlspot Theater. There are plans to continue and expand the series in the future, programming a range of different artists and performances.

(15) ドキュントメント『となり街の知らない踊り子』

脚本・振付・演出:山本卓卓

DOCU(NT)MENT "The Unknown Dancer in the Neighboring Town" Written, Choreographed and Directed by Suguru Yamamoto

しなやかさをもって縦横無尽に動き回るその身体は、90分間観客を圧倒しつづけた。

12/1 (Thu) - 12/4 (Sun) あうるすぼっと ホワイエ 全 4 ステージ / 来場:384 名 Owlspot Theater (Foyer) Performances: 4 Audience: 384



This production was part of a solo documentary project started by the playwright and director Suguru Yamamoto, who leads the up-and-coming theatre group HANCHU-YUEI. Joined by Wataru Kitao, who leads the group Baobab, as co-choreographer, co-director and performer, the collaborative piece was premiered in 2015 and then revived to much acclaim at TPAM Direction in February 2016.

国内外で活躍する劇団範宙遊泳を率いる劇作・演出家、山本卓卓のソロ・プロジェクトであるドキュント

メントによる演劇作品『となり街の知らない踊り子』。振付・演出・出演に北尾亘(Baobab 主宰)を迎え、

協働して創作された本作は、2015年に初演、2016年2月にTPAMディレクションで再演され好評を得た。

今回は、あうるすぽっとの劇場内ではなく、ホワイエに舞台と客席を組んで上演された。既存の壁や階

段に、山本の特徴であるプロジェクションが効果的に使用され、劇的な空間を創出した。唯一の出演者で

ある北尾は、投射されるテキストと対話しながら、老若男女から電車や犬に至るまで、25 役を巧みに演じ

分け、「他人」に無関心な街のいくつものエピソードを一層のユーモアと悲哀に満ちたものにした。強さと

This second revival was performed at Owlspot Theater, though not inside the main auditorium but rather in the foyer. The walls and stairs were effectively utilized for Yamamoto's signature use of projections, creating a new kind of theatrical space. Kitao, the sole performer, engaged in a dialogue with the projected text, deftly sequing through 25 roles, from men to women, young or old, and even a train and a dog. The result was a sequence of episodes filled with both humor and sorrow about a town where no one is interested in others. Robust vet supple, Kitao's body moved freely as it overwhelmed audiences over the 90 minutes of the performance.



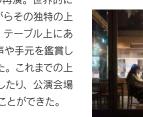
● チェルフィッチュ 『あなたが彼女に してあげられることは何もない』

作·演出: 岡田利規

chelfitsch "There is Nothing You Can Do for Her" Written and Directed by Toshiki Okada

12/2 (Fri) - 12/5 (Mon) 南池袋公園内 Racines FARM to PARK 全8ステージ/来場:417名 Racines FARM to PARK (Minami Ikebukuro Park) Performances: 8 Audience: 417







営業中のカフェの一席で独り言をつぶやき続ける1人の女性を窓越しに観劇する作品の再演。世界的に 活躍するチェルフィッチュの岡田利規が作・演出した本作は、30 分間という短編でありながらその独特の上 演形態が注目された。特異な存在感を放つ稲継美保が、天地創造や地球史を巡る物語を、テーブル上にあ るコーヒーカップやミルク、タバスコやチーズを用いながら語り、モニターを通して彼女の声や手元を鑑賞し た。都市のなかに潜む様々な問題や、遠く離れた別の場所の出来事へと想像を呼び起こした。これまでの上 演ではスピーカーを使用してきたが、本作では観客がヘッドホンを装着するスタイルに変更したり、公演会場 に合わせた衣装を選定し直したりするなど、池袋バージョンとして作品を都市に浸透させることができた。

This was a revival of a play where audiences watch a young woman through the window of a cafe, sitting alone and talking to herself. Written and directed by the internationally acclaimed Toshiki Okada (chelfitsch), the 30-minute performance has attracted attention for its unique format. The woman, performed with singular presence by Miho Inatsugu, talked about the creation of the universe and the history of the earth, using the tableware and food and drink items in front of her. The audience watched and listened to her through a monitor they held in their hands. The performance evoked the problems that lie concealed in the city or even incidents far away. Previous performances of the play had used of speakers but for this staging the audiences were headphones that led to a more intimate viewing experience. The costume was also adjusted to the new venue, making this Ikebukuro version truly permeate into the local landscape of the city.

特別協力: Racines FARM to PARK Special cooperation from Racines FARM to PARK

3-2 主催企画 Related Events

F/T テーブル

F/T Table

10/19 (Wed) - 11/6 (Sun) 東京芸術劇場 アトリエイースト 来場:1,149 名 **Tokyo Metropolitan Theatre** (Atelier East) Audience: 1,149

フェスティバルのメイン会場である東京芸術劇場に、様々なトークや ワークショップ、上映会などを開催するスペース「F/T テーブル」を開 設。会期中の19日間、F/T16のプログラムをより深く理解し、楽し むための多彩な関連企画を展開した。『x / groove space』の感想を シェアするワールド・カフェ(ワークショップ)では、それぞれの視点 の違いを共有し、鑑賞体験を深める機会となった。また、会場の内外 では F/T サポーター自主活動で生まれた「都市と舞台の小道具展」を 実施。リサーチのワークショップを経て、独自に開発したユニークな 形の展示台の上に、劇場周辺の「都市」と、主催プログラムの「舞台」 で使われている小道具(モノ)を混在させて展示。日常とフィクション が交差する空間を生み出した。劇場で異彩を放つ存在に、通りすがり に立ち止まる人も多かった。

F/T テーブルは、フェスティバルの入り口として来場者を緩やかに巻 き込みながら、テーブルを囲むように人々が集い、語らう場となった。

F/T Table was a space inside the main F/T16 venue of Tokyo Metropolitan Theatre for talks, workshops and screenings. For 19 days during the festival, F/T Table hosted a wide range of events that allowed audiences to enhance their experience of the performances. The "x / groove space" Discussion Cafe provided a chance to share impressions of the dance work. The "The City and Stage Props" Exhibition was created by the festivals' volunteers. Following a research workshop, the volunteers produced an exhibition on a uniquely shaped platform, featuring symbols of the area around the theatre as well as the props used in the festival's performances. The theatre lobby transformed into a special fusion of fiction and the everyday, attracting passersby to the striking space. In this way, F/T Table formed a gateway to the festival, bringing people together to take part in discussion and exchange.

展示 Exhibition

▶都市と舞台の小道具展 "The City and Stage Props" Exhibition 10/19 (Wed) - 11/6 (Sun)

プラン/デザイン:阿部太一(GOKIGEN、グラフィックデザイナー)、 冨永美保 + 伊藤孝仁 (tomito architecture、建築家)、F/T サポーター Planning and Design: Taichi Abe (GOKIGEN, graphic designer), Miho Tominaga and Takahito Ito (tomito architecture), F/T Volunteer Supporters

トーク Talks

▶トーマス・ベルンハルトとウィーン演劇 Thomas Bernhard & Vienna Theatre 10/19 (Wed)

講師: 寺尾 格(専修大学教授) Guest Speaker: Itaru Terao (Senshu University)

▶ポーランド演劇の最前線 Cutting-edge Polish Theatre 10/20 (Thu)

講師:グジェゴシュ・レスケ(アートプロデューサー) Guest Speaker: Grzegorz Reske (art producer) 共催:ポーランド広報文化センター、Culture.pl Co-organized by Instytut Polski w Tokio, Culture.pl 後援:駐日ポーランド共和国大使館 Endorsed by the Embassy of the Republic of Poland

▶多民族国家マレーシアにおけるアートプロジェクト Art Projects in Multi-Ethnic Malaysia 10/22 (Sat)

登壇者:ファイルズ・スレイマン、ロスリシャム・イスマイル (イセ) Guest Speakers: Fairuz Sulaiman, Roslisham Ismail (Ise) 聞き手: 小川希 (Art Center Ongoing 代表、TERATOTERA ディレクター) Moderator: Nozomu Ogawa (Art Center Ongoing, TERATOTERA) 共催:国際交流基金アジアセンター

Co-organized by the Japan Foundation Asia Center

ワークショップ Workshops

▶森川弘和による ツアー型 身体ワークショップ Hirokazu Morikawa Workshop 「うたの木の PV に出演しよう!」 Appear in the "Song Tree" Music Video

講師:森川弘和 Instructor: Hirokazu Morikawa 楽曲協力:吉田省念 Music courtesy of Shonen Yoshida

▶ F/T サポーター企画 F/T Volunteer Supporters' Project 『x / groove space』"鑑賞体験を深める"ワールド・カフェ "x / groove space" Discussion Cafe 11/6 (Sun)

進行: F/T サポーター Facilitators: F/T Volunteer Supporters

上映会 Screenings

▶チェルフィッチュ『現在地』 chelfitsch "Current Location" 10/30 (Sun)

映像提供:チェルフィッチュ Video courtesy of chelfitsch

▶範宙遊泳『うまれてないからまだしねない』 HANCHU-YUEI "I can't die without being born" 11/3 (Thu)

映像提供:範宙遊泳 Video courtesy of HANCHU-YUEI

▶森川弘和(振付・出演) × 杉山 至(美術・衣裳デザイン)『動物紳士』 Hirokazu Morikawa (Choreography, Cast)

+ Itaru Sugiyama (Stage Design, Costumes) "Mr. Creature" 11/3 (Thu)







Photo: Takashi Ootak 「都市と舞台の小道具展」 "The City and Stage Props" Exhibition

F/T サポーター

F/T Volunteer Supporters

F/T を応援し、一緒に盛り上げるボランティア活動「F/T サポーター」。 今年度は【フェスティバル運営サポート】【プロジェクトサポート】【自 主活動】の3本の柱に加えて、登録なしでも参加できる「オープンデー」 も設定。人とコミュニティをはぐくむことを目的としたプログラムを展 開した。【フェスティバル運営サポート】は、未経験でも活躍できるよ う、事前にフロント研修会を実施。会場の運営や仕込みのサポートを 通じて、フェスティバルの現場を支えた。【プロジェクトサポート】では、 会期前から「盆踊り隊」「縫い隊」「音楽隊」「めざせ! POLITIKO ゲー ムマスター!ワークショップ」など演目に付随した活動を行い、さまざ まな人を巻き込みながらフェスティバルを盛り上げた。【自主活動】では、 「新しいロビーをデザインする」と「かんげきワークショップ部」の2 つのプロジェクトが稼働。「新しいロビーをデザインする」では、建築 ユニット tomito architecture とデザイナー阿部太一を講師に迎え、"ス ペース(空間)をプレイス(場所)にする"をキーワードに、池袋や劇 場などの緻密なリサーチを行った。このプロジェクトで誕生した「都 市と舞台の小道具展」は会場のロビーを巡回し、好評を博した。「か んげきワークショップ部」では、ファシリテーター白川陽一を講師に 迎えて、オリジナルのワークショップを開発。全6回の活動を通して、 ワークショップについて学び、『x/groove space』の鑑賞体験を深 める「ワールド・カフェ」を企画・実行。観客同士の対話の場を創出し、 鑑賞の面白さを再発見する機会となった。

登録者:399名 Participants: 399

The F/T Volunteer Supporters is a volunteer program allowing people to learn about how the festival works and participate. This year there were three types of projects: assisting the general operation of the festival; assisting in the running of specific projects; and planning and creating personal projects. The festival also held an open day that anyone could attend without prior registration. As such, the program aimed to cultivate a stronger theatre community in Tokyo. Volunteers assisting with the general operation of the festival helped run the venues used in the festival. Suitable even for people without any experience, an advance orientation was held to teach participants how a front-of-house team operates. The project assistants helped with three aspects of "Festival Fukushima! @lkebukuro Nishiguchi Park," starting from before the festival opened, and there was also another program related to the card came "POLITIKO," which was part of F/T16. The personal projects program allowed participants to take the lead in two areas: designing a new theatre lobby and a workshop about going to see performances. The former was supervised by the architecture unit tomito architecture and the designer Taichi Abe. Participants researched Ikebukuro and various theatre venues to consider how to transform a "space" into a "place." The results of the workshop were presented in an exhibition that toured the different lobbies of the festival venues. The workshop on theatre-going was instructed by Yoichi Shirakawa. Participants attended six study sessions and planned a cafe-style event that would enhance the experience of watching "x / groove space," whereby members of the audience could discuss with each other about what they found interesting.

≪活動内容≫

プロジェクトサポート Project Assistants

▶フェスティバル FUKUSHIMA! @池袋西口公園 Festival Fukushima! @Ikebukuro Nishiguchi Park

·「音楽隊」Music Team 講師:大友良英 Instructor: Otomo Yoshihide

・「盆踊り隊」 Bon Dance Team 講師:伊藤千枝 (珍しいキノコ舞踊団) Instructor: Chie Ito (Strange Kinoko Dance Company)

·「縫い隊」Sewing Team



盆踊り隊 Bon Dance Team



▶アジアシリーズ vol.3 マレーシア特集 Asia Series Vol.3: Malaysia

・「めざせ! POLITIKO ゲームマスター!」 ワークショップ

POLITIKO Workshop 講師:白川陽-

(ファシリテーター、Keramago Works / ケラマーゴ・ワークス) Instructor: Yoichi Shirakawa (facilitator, Keramago Works)



フェスティバル運営サポート Festival Operation Assistants



自主活動 Personal Projects

▶「新しいロビーをデザインする」 Designing a New Lobby

講師: 冨永美保 + 伊藤孝仁 (tomito architecture、建築家) 阿部太一(GOKIGEN、 アートディレクター、 グラフィックデザイナー) Instructors: Miho Tominaga and Takahito Ito (tomito architecture) Taichi Abe (GOKIGEN, art director, graphic designer)



▶「かんげきワークショップ部」 Theatre-going Workshop

講師:白川陽一 (ファシリテーター、 Keramago Works / ケラマーゴ・ワークス) Instructor: Yoichi Shirakawa (facilitator, Keramago Works)



F/T キャンパス

F/T Campus

10/21 (Fri) - 10/24 (Mon)

東京芸術劇場、にしすがも創造舎、国立オリンピック記念青少年総合センターほか

参加人数:28名

Tokyo Metropolitan Theatre, Nishi-Sugamo Arts Factory, National Olympics

Memorial Youth Center, and more

Participants: 28

芸術・演劇や文化政策に関心をもつ学生が、共に学び、交流する 4 日間の合宿ワークショップ「F/T キャンパス」。普段の学びや興味関心について考え、仲間とともに未来を切り開いていく試みとして企画され、公募にて選出された 28 名が、寝食を共にしながら濃密な時間を過ごした。プログラムは主に、作品鑑賞・スペシャルトーク・選択ゼミの3 本柱で構成。参加アーティストとのトークだけではなく、マレビトの会『福島を上演する』の稽古見学・ディスカッションも実施され、クリエイションの源泉に触れる機会となった。選択ゼミは、講師に稲村太郎・柴幸男・萩原健を迎えた3コースが開講し、最終日に行われた合同ゼミで、各ゼミによる発表を通して内容を共有。大学での専攻とは異なる分野にチャレンジし、知見をひろげた。また、参加者それぞれが期間中に意思表明した【3 年後/10 年後のビジョン】からは、社会や芸術と向き合いながら葛藤する参加者の未来への萌芽が垣間見えた。

F/T Campus was a four-day workshop for students interested in theatre, the arts and cultural policy. The 28 participants stayed and ate together during the period of the workshop, forming an incubator of new ideas for the future. The program comprised three aspects: watching performances, special talks, and seminars. In addition to talks with artists appearing at F/T16, the students also had a valuable opportunity to come into contact with the genesis of a new work of theatre by watching a rehearsal of "Performing Fukushima" and then discussing it. The seminars were divided into three courses instructed by Taro Inamura, Yukio Shiba and Ken Hagiwara, culminating in a joint seminar on the final day that shared the results of each class. It proved a chance for students to learn about something other than their regular college major and broaden their perceptions. In addition, in the ideas presented by the participants for their visions of three and ten years from now we could glimpse the seeds of the future.

マレビトの会 marebito theater company ファイルズ・スレイマン Fairuz Sulaiman

ロスリシャム・イスマイル(イセ) Roslisham Ismail (Ise)

ゲスト Guest Speakers

クリスチャン・ルパ Krystian Lupa

井手茂太(イデビアン・クルー主宰) Shigehiro Ide (idevian crew) 松田正隆(マレビトの会代表、立教大学現代心理学部映像身体学科教授) Masataka Matsuda (marebito theater company, Rikkyo University College of Contemporary Psychology Body Expression and Cinematic Arts)

選択ゼミ

【文化政策ゼミ】「演劇を取り巻く環境をマネジメントの立場から考えてみる」

講師:稲村太郎((株) ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室) 内容: F/T が社会に与えてきたインパクトや、プロジェクトやプログラムの評価 について、グループワーク形式でロジック・モデルという手法を用いて考えた。

【実技ゼミ】「F/T キャンパスで他者と演劇をつくってみる」

講師:柴幸男(ままごと主宰)

内容:舞台芸術作品は、どのようなプロセスを経て創られるのか。自分自身 の体験を観察し、メンバー(=他者)とともに小作品を作るなかで、演劇創 作の根本を体験した。

【理論・評論ゼミ】「F/T キャンパスで観る作品を歴史的・理論的にとらえてみる」

講師: 萩原 健 (明治大学国際日本学部教授)

内容:期間中に鑑賞する作品は舞台芸術の歴史や理論をふまえると、どのように捉えることができるのか。事前配布した資料やレクチャーを交えながら、参加者主体で鑑賞体験をもとにディスカッションをした。

スケジュール Schedule 10/21 (Fri)

- ・オリエンテーション Orientation
- ・レクチャー〈 F/T について〉 Lecture: About F/T
- ・F/T ディレクター市村作知雄を交えた交流会
- Meeting with Sachio Ichimura (F/T Director)
 ・『シカク』(A: 女性 Ver) 鑑賞 "Blind Spot" (female cast version)
- **10/22 (Sat)** ・クリスチャン・ルパ パブリックトーク Public Talk with Krystian Lupa
- ・選択ゼミ< 1 日目> Seminar Day 1
- ·『Woodcutters 伐採 —』観劇 "Woodcutters"

共催:国際交流基金アジアセンター(10月24日スペシャルトークのみ) Co-organized by the Japan Foundation Asia Center (October 24th talk only)



Photo: Kazu



Photo: Kazuya Kati

Seminars

Cultural Policy: Considering Theatre Environments from the Standpoint of Management

Instructor: Taro Inamura (Center for Arts and Culture, NLI Research Institute)
Curriculum: Participants worked in groups to appraise F/T's social impact and its various projects and programs using a logic model.

Technique: Creating Theatre

Instructor: Yukio Shiba (mamagoto)

Curriculum: What is the process of creating a performance? This seminar offered an experience of the fundamentals of theatre creation by observing participants' own experiences and then making something together with other participants.

Theory and Criticism: Interpreting a Theatre Work Historically and Theoretically

Instructor: Ken Hagiwara (Professor, Meiji University School of Global Japanese Studies) Curriculum: Participants watched a performance at F/T and then interpreted it based on performing arts history and theory. Following a lecture and study of materials distributed in advance, the participants led a discussion about what they saw.

10/23 (Sun)

- ・スペシャルトーク(クリスチャン・ルパ×参加者) Special Talk with Krystian Lupa
- ・『シカク』(B: 男性 Ver) 鑑賞 "Blind Spot" (male cast version)
- ・スペシャルトーク(井手茂太×参加者) Special Talk with Shigehiro Ide
- ・選択ゼミ<2日目> Seminar Day 2

10/24 (Mon)

- ・選択ゼミ< 3 日目> Seminar Day 3
- ・マレビトの会『福島を上演する』稽古見学・ディスカッション "Performing Fukushima" Rehearsal and Discussion
- ·スペシャルトーク(ファイルズ·スレイマン×ロスリシャム·イスマイル(イセ)×参加者) Special Talk with Fairuz Sulaiman and Roslisham Ismail (Ise)
- · 合同ゼミく選択ゼミで行った内容のシェアと振り返り> Joint Seminar
- ・全体ふりかえり Wrap-up



Photo: Kawam Kata

インターンシップ・プログラム

Internship Program

7月~12月上旬 July – early December 参加人数:28名 Participants:28

舞台芸術の仕事に興味を持ち、就業を考える人に向けて、業界への門戸を開く人材育成プログラム。F/Tでは、2009年当初より、装いを変えつつも継続して専門人材の育成を行つている。本年は大学生を中心とした28名が、勉強会と実務作業のプログラムに取り組んだ。会期前に実施した全10回の勉強会では、舞台芸術の基礎知識や文化政策などについて学び、事業の背景や専門用語について理解を深めた。また行政の文化担当者など、第一線で活躍する多彩なゲストから話を聞くことで、業界の見取り図を描く機会となった。実務作業は制作部門と広報部門に分かれて活動。制作部門では、上演に伴う事務作業から稽古場のサポート、ワークショップや本番の運営など、制作に関わる一連の業務を経験。広報部門では、記者会見や公式ウェブサイトの製作補助、豊島区庁舎・図書館展示企画のプランニングから実施などの業務を担った。約6か月間の活動を通じて、社会・自己・業界と出会い、仕事への適性を見極める体験となった。

This training program aims to open the door to the industry for people interested in working in the performing arts. F/T has organized this kind of program in various ways since the festival launched in 2009. This year it comprised study sessions and work placements. There were 28 participants, most of whom were university students. A total of ten study sessions were held before the festival started, teaching cultural policy and the basics about the performing arts. The participants were able to deepen their understanding of the background to the festival and specialist vocabulary. External experts were also invited to speak to the trainees, such as someone working in the culture and the arts field in government. Work placements were available in the production and public relations teams. In the former, interns assisted with office duties, rehearsals, workshops and performances. Interns in the PR team helped at the press conference as well as tasks related to the festival website and also planning exhibitions at Toshima City Office and Toshima Central Library. Over the course of their roughly six-month internships, participants experienced a valuable insight into the nature of the industry.







Photo: Kazuya K

F/T Books

F/T Books

10/13 (Thu) – 11/20 (Sun) ジュンク堂書店 池袋本店 9F 芸術書フロア Junkudo Ikebukuro (9F Arts Section) 10/19 (Wed) – 11/6 (Sun) シアターアートショップ Theatre Art Shop

恒例となっている「F/T Books」は、書籍を通じて F/T や舞台芸術についての関心を掘り下げることを目的とした企画で、今年は池袋の 2 店舗と連携し開催した。

ジュンク堂書店池袋本店では、作品に込められた思いやコンセプトを、上演以外の場で観客に触れてもらえるような選書を参加アーティストから集めた。さらにサポーター事業の講師陣が、舞台を楽しむための「場を作る」といった視点で選んだ書籍は、公演とはまた違った角度から F/T を味わうきっかけとなった。展開場所は昨年に引き続き、芸術書フロアの中でも人が多く行き交うエスカレーター前を利用することができ、ポスターの掲示やバンフレットの設置で効果的な PR につながった。

東京芸術劇場 1 階のシアターアートショップでは『Woodcutters 一 伐採 一』の上演に合わせたポーランドの演劇・美術関連の選書を展開。また、演劇に対する感度が高い観客が多いことを見込んで、最新の演劇論集なども揃えた。

This annual part of the festival aims to introduce further aspects of the performances through related publications. This year it was organized in partnership with two bookstores in the Ikebukuro area.

The Junkudo lkebukuro store featured a selection of book titles selected by the artists participating in F/T16 as ways for audiences to learn more about the ideas and contexts of the performances. Instructors in the F/T Volunteer Supporters program also chose books that shared the joy of making theatre. Following on from last year, the display was located in front of the escalators, allowing it to be seen by the optimum number of people visiting the floor, and also included posters and pamphlets about the festival.

At Theatre Art Shop, located on the ground floor of Tokyo Metropolitan Theatre, there was a display of books related to Polish art and theatre during the performances of "Woodcutters." As the shop is visited by serious theatre aficionados, the selection also include recent theatre criticism.







展示

Exhibitions

10/1 (Sat) - 11/30 (Wed) 豊島区役所内「庁舎まるごとミュージアム」 **Toshima City Office** (Marugoto Museum)

9/24 (Sat) - 11/24 (Thu) 豊島区立中央図書館 **Toshima Central Library**

豊島区庁舎内の回廊を利用した「庁舎まるごとミュージアム」で、2 フロアに渡っ て展示を行なった。8階ではF/T14、15の舞台写真を展示し、4階では主催プロ グラムを紹介するパネルや、「境界を越えて、新しい人へ」というテーマに関するディ レクターからのメッセージなどを展示した。F/T の情報やテーマの意図を発信でき ただけでなく、身近な場所で舞台芸術について触れる機会を創出することができた。 また、あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)と同建物内にある豊 島区立中央図書館では、特設コーナーを設けた。F/T16の関連書籍を計60冊選 出し、演目の紹介パネルと共に配架した。図書を通して F/T を紹介することで、作 品内容やアーティストについて理解を深める機会を設けることができた。

An exhibition about Festival/Tokyo was held over two floors at Marugoto Museum, a space located in the corridors of Toshima City Office. The eighth floor exhibited photographs from F/T14 and F/T15, while the fourth floor had displays introducing the 2016 festival's performances as well as the festival director's concept text. Another exhibition was organized at Toshima Central Library, which is located in the same building as Owlspot Theater. A special display featured 60 books related to the festival's program in addition to displays about the performances. This allowed the festival to reach new people in the community and help further understanding of the theatre and dance in F/T16.







アンジェリカ・リデル ドキュメンタリー映画上映 アンジェリカ『ある悲劇』(2016)

Film Screening: "Angelica. A tragedy" (2016)

12/1 (Thu) セルバンテス文化センター東京 地下1階オーディトリアム 来場:57名 Instituto Cervantes (B1F Auditorium) Audience: 57

F/T15 で上演したアンジェリカ・リデル『地上に広がる大空(ウェンディ・シンドローム)』が初日を迎えるまでのドキュメ ンタリー映画を日本語字幕つきで上映した。アジアプレミアとなった本上映は、セルバンテス文化センター東京が主催する「映 画・音楽フェスティバルドゥエンデ」の1プログラムとして実施され、スペイン文化に関心のある多くの観客が来場した。終 映後には2016年7月にアヴィニョン演劇祭で初演された『わたし、この剣でどうしよう』に出演した菊沢将憲を招いたトー クセッションが開催され、映画の舞台にもなったマドリード近郊の稽古場で2ヶ月間行われたクリエーションの様子や9月に 行われたブラジル公演でのエピソードが語られた。







ドイツダンス月間

German Dance Month

10/31 (Mon) - 11/19 (Sat) 東京ドイツ文化センター 来場:609名 Goethe-Institut Tokyo Audience: 609

F/Tで来日したスザンネ・リンケ、セバスチャン・マティアスを機軸に、展示、ダンス批評講座、シンポジウムなどによって、 ドイツ・ダンスの過去と現在を包括的に紹介した。展示では、ナチスの迫害を受けてドイツからの逃亡を余儀なくされた約 30名のドイツ表現主義舞踊のダンサーたちを取り上げ、その亡命についての足跡を辿った。ダンス批評講座では『tanz』誌 の編集者で舞踊批評家のアルント・ヴェーゼマンを講師に招き、『x/groove space』を題材に、「批評」という行為の本質を 問い直した。また、シンポジウムでは、ガブリエレ・ブラントシュテッター教授と、日本とドイツの若手研究者を交えて、最 新のコンテンポラリーダンス作品に触れながら、ダンスの概念の今について議論を行った。

To coincide with the performances at F/T16 of the work of Susanne Linke and Sebastian Matthias, this series of three events comprehensively examined the past and present of German dance. An exhibition introduced the lives and work of around 30 dancers and choreographers of Ausdruckstanz, or German expressionist dance, who fled Nazism. A workshop was led by Arnd Wesemann, a dance critic and editor of the magazine tanz. Participants watched a technical rehearsal for "x / groove space" and then used the performance to re-evaluate the act of criticism. Finally, a symposium was also held with Gabriele Brandstetter of Freie Universität Berlin and young German and Japanese dance researchers exploring recent trends in contemporary dance and the concept of dance







3-3 関連企画 Satellite Events

「クリスチャン・ルパと現代ポーランド演劇の魅力」

登壇者: 横堀応彦 (F/T プログラム・コーディネーター) 、久山宏一 (ポーランド広報文化センター ポーランド演劇・映画担当)

Talk: Krystian Lupa and Contemporary Polish Theatre

Guest Speakers: Masahiko Yokobori (F/T Program Coordinator), Koichi Kuyama (Theatre and Film Programmer, Instytut Polski w Tokio)

ポーランド広報文化センターと CULTURE.PL が共同実施 したポーランド最新のグラフィック・デザイン展「EYE ON POLAND」の関連イベントとして現代ポーランド演劇の魅力を 紹介するトークイベントが開催された。ポーランド文化に関心 のある熱心な観客が集まり、久山は自身のポーランド演劇との 出会いから日本とポーランドの演劇交流について報告し、横 堀はポーランド演劇の魅力や『Woodcutters — 伐採 —』を 招聘した理由について実際の観劇体験を交えながら語った。

This talk about contemporary theatre in Poland was a satellite event for "Eye on Poland," an exhibition co-organized by Instytut Polski w Tokio and Culture.pl introducing the latest examples of graphic design from the country. Attended by an audience with a keen interest in Polish culture, Koichi Kuyama described his first encounters with Polish theatre and examples of interchange between the Japanese and Polish theatre scenes, while Masahiko Yokobori shared his impressions of Polish theatre and the reasons for including "Woodcutters" in the F/T16 program.



3331 Arts Chiyoda

主催:ポーランド広報文化センター、 Culture.pl **9/11 (Sun)**

Presented by Instytut Polski w Tokio, Culture.pl



11/2 (Wed)

来場:38名

UPLINK

LIPI INK

主催: UPLINK

主催: UPLINK

Presented by UPLINK

Presented by UPLINK

F/T×アップリンク クロスオーバー企画 F/T ディスカッション「演劇とコントのあいだ」

出演:松田正隆、神谷圭介、綾門優季

F/T + UPLINK Partnership Program Talk: Between Theatre and Comedy

Guest Speakers: Masataka Matsuda, Keisuke Kamiya, Yuuki Ayato

ト・テニスコートの神谷圭介、ナビゲーターに青年団リンクキュイの綾門優季を迎え、 演劇とコントの可能性についてトークを行った。F/Tだけでなく、アップリンクの顧 客も視野にいれた企画として、さまざまな資料映像を上映した。

松田からは、価値がないと言われるものにユーモアを見つけ出すコントの美学に 魅力を感じていることが語られた。また、神谷からは俳優の動きや眼差しから何も ない空間に景色が浮かび上がるマレビトの会の作品にコントの可能性を見い出したこ となどが語られ、「演劇」と「コント」が出会う瞬間を目の当たりにするトークとなった。

マレビトの会の松田正隆、『福島を上演する』の作家のひとりであるコントユニッ This talk (eatured Masataka Matsuda (marebito theater company) and Keisuke Kamiya, who is a member of the comedy skit group Tennis Court and one of the writers for marebito theater company's "Performing Fukushima" at F/T16. Moderated by Yuuki Avato (Cui), the talk discussed the intersecting possibilities of theatre and comedy. Part of a program of events organized with UPLINK, the talk could draw on UPLINK's film archive to present various examples to the audience. Matsuda introduced how a comedic skit can find humor in what is normally seen as mundane and without value. Kamiya, on the other hand, described how he had discovered new possibilities for skits from the work of marebito theater company, in which landscapes emerge in an empty space out of the movements and gazes of the actors.



11/7 (Mon)

来場:40名

Audience: 40

UPLINK

UPLINK

F/T×アップリンク クロスオーバー企画 F/T リミックス [LIVE Performance:伊東篤宏 × 北尾 亘 × 稲継美保]

出演: 伊東篤宏 (演奏) × 北尾 亘 (ダンス) × 稲継美保 (朗読) F/T + UPLINK Partnership Program F/T Remix Live Performance

Performers: Atsuhiro Ito (music), Wataru Kitao (dance), Miho Inatsugu (reading)

F/T16 の参加パフォーマーが作品の垣根を越えて「エニグマ(謎)」を テーマに、一夜限りのライブ・パフォーマンスを行なった。『x/groove space』の伊東篤宏 (音楽)、『となり街の知らない踊り子』の北尾亘 (ダ ンス)、『あなたが彼女にしてあげられることは何もない』の稲継美保(朗 読)の3名が参加。各5分、全10シーンで構成されたプログラムは、 音楽、ダンス、朗読の3つのパートをランダムに組み合わせ、即興で行わ れた。言葉、身体、音、光の最小限の要素で、パフォーマー同士が偶発的 に触発し合い、フェスティバルならではの意欲的な取り組みがなされた。

This event brought together three performers appearing in different events at F/T16: the music artist Atsuhiro Ito from "x / groove space"; the dancer Wataru Kitao from "The Unknown Dancer in the Neighboring Town"; and the actor Miho Inatsugu from "There is Nothing You Can Do for Her." Across ten scenes lasting five minutes each, this improvised performance randomly mixed music, dance and reading. Though comprising only the most minimal elements of language, physicality, sound and light, the three participants interfaced with each other to create a unique evening of performance.



森川弘和による ツアー型 身体ワークショップ「うたの木の PV に出演しよう!」

講師:森川弘和 楽曲協力:吉田省念

講師:スザンネ・リンケ

Instructor: Susanne Linke

Hirokazu Morikawa Workshop Appear in the "Song Tree" Music Video

Instructor: Hirokazu Morikawa Music courtesy of Shonen Yoshida

『うたの木』の森川弘和による、身体の動きにまつわるツアー 型ワークショップを実施、ダンス経験の有無を問わず参加者 を募集した。『うたの木』同様に、屋外での身体表現を体験し てもらい、身体表現に興味を持つてもらう機会を作った。参 加者 10 名と森川が池袋を散歩しながら、出会った建物や道 に合わせて、即興で動きを創作した。その模様を映像に記録し、 吉田省念が作詞・作曲した新曲「うたの木」の音楽を組み合 わせて、本公演のプロモーションビデオとして完成させた。

This "tour" workshop was led by Hirokazu Morikawa, whose "Song Tree" was part of the festival. Participants were recruited from the general public regardless of experience with dance. In the same way as "Song Tree" was performed outside, the workshop was an opportunity for people interested in dance to express themselves through their bodies outdoors. The ten participants and Morikawa walked around the lkebukuro area, creating improvised dance movements to match the various buildings and streets they encountered along the way. The workshop was filmed and used as a video for promoting "Song Tree" accompanied by new music by Shonen Yoshida.





スザンネ・リンケ ワークショップ

12/4 (Sun) - 12/6 (Tue) 東京芸術劇場 リハーサルルーム M3 参加人数:18名 Tokyo Metropolitan Theatre (Rehearsal Room M3)

Participants: 18



スザンネ・リンケによる3日間に渡るワークショップをダンス 経験者向けに行った。主にリンケ振付の『NEMMOKNA』(2016) の1パートを切り取り、それぞれの動きを掘り下げレッスンし、 最終日にそのパートを完成させた。リンケは一人ずつ丁寧に目線 や、力を入れる部分などを指導するだけでなく、振付に対するイ マジネーションの大切さや、バレエやグラハムテクニックの重要 性などについても語った。日本の次世代ダンサー達にとって、世 界の第一線を体感する、フェスティバルならではの機会となった。

Susanne Linke Dance Workshop in Tokyo

Susanne Linke led a three-day workshop for participants with dance experience. Mainly drawing on the first part of Linke's recent dance performance "NEMMOKNA" (2016), the workshop explored and developed each individual movement. The part was then completed on the final day. In addition to carefully guiding each participant regarding eye line and the areas where they should improve, Linke taught them the importance for choreography of the imagination as well as ballet and the Graham technique. For the participants, who represented the next generation of dance talent in Japan, it was a unique opportunity to experience the work of a world-class practitioner.

4 連携プログラム

F/T Affiliated Program

F/T16 会期中の 2016 年 10 月から 11 月にわたって、都内 および東京近郊で開催される公演の中でも、とりわけ高い現代 性と豊かなオリジナリティを持つ国内外の演劇やダンスの 14 演 目を、F/T16 連携プログラムとして紹介した。

From October to December 2016, many other performances and theatre events took place in and around Tokyo. These 14 theatre and dance productions, happening at the same time as Festival/Tokyo 2016, demonstrated the originality and diversity of the local performing arts scene.

Dance New Air 2016

主催: Dance New Air Dance New Air 2016 Presented by Dance New Air 10/1 (Sat) - 10/10 (Mon) 全 14 ステージ ※その他関連事業あり 来場: 25.805 名 Performances: 14 (and other events) Audience: 25,805

▲ オープニング ダンス三昧プログラム

伊藤キム/フィジカルシアターカンパニー GERO『家族という名のゲーム』 スパイラルホール

10/1 (Sat), 10/2 (Sun)

Kim Itoh/Physical Theatre Company GERO "The Game Named Family"

Written and Directed by Kim Itoh

オープニング ダンス三昧プログラム

KENTARO!!/東京 ELECTROCK STAIRS『前と後ろと誰かとえん』

10/1 (Sat), 10/2 (Sun) スパイラルホール Spiral Hall

10/1 (Sat), 10/2 (Sun) スパイラルホール

10/4 (Tue), 10/5 (Wed)

10/8 (Sat), 10/9 (Sun)

東京ウィメンズプラザ

Tokyo Women's Plaza

10/8 (Sat) - 10/10 (Mon)

スパイラルホール

Spiral Hall

スパイラルホール

Spiral Hall

Spiral Hall

KENTARO!!/TOKYO ELECTROCK STAIRS

"The Tether Going Round and Tying Front and Back Together"

Music, Choreography: KENTARO!!

オープニング ダンス三昧プログラム 山田うん『ディクテ』

> 演出・振付: 山田うん Un Yamada "DICTEE"

Directed and Choreographed by Un Yamada

グェルテダンス『CORRECTION』

演出:イジー・ハヴェルカ 振付:ヴェロニカ・クニトロヴァー、テレザ・オンドロヴァー

VerTeDance "CORRECTION" Directed by Jiří Havelka

Choreography: Veronika Kotlíková, Tereza Ondrová

⑤ カンパニー・アドリアン M/ クレール B『HAKANAÏ』

構成・演出:アドリアン・モンド、クレール・バルデンヌ Cie Adrien M/Claire B "HAKANAÏ"

Composed and Directed by Adrien Mondot and Claire Bardainne

⑥ 向井山朋子『La Mode(ラ・モード)』

コンセプト・芸術監督:向井山朋子 振付:ドュニャ・ジョーヂッチ

Tomoko Mukaiyama "La Mode"

主演・演出・振付:シディ・ラルビ・シェルカウイ

主催:株式会社パルコ、株式会社テレビ朝日

Concept, Artistic Director: Tomoko Mukaiyama

Choreography: Dunja Jocic

『sutra スートラ』

"sutra"

10/1 (Sat), 10/2 (Sun)

Bunkamura オーチャードホール

全3ステージ 来場:5,523 名 Bunkamura Orchard Hall

Performances: 3 Audience: 5.523

Starring, Directed and Choreographed by Sidi Larbi Cherkaoui Presented by Parco Co., Ltd. and TV Asahi Corporation

カンパニー デフラクト『フラーク』

出演:ギヨーム・マルティネ エリック・ロンジュケル 音楽・ステージマネージャー:ダヴィッド・マイヤール

出演:仲村トオル 瀬戸康史 山内圭哉 池谷のぶえ 安井順平 浜田信也 安藤輪子 石山蓮華 銀粉蝶

主催:世田谷パブリックシアター(公益財団法人せたがや文化財団)

Compagnie Defracto "Flaque"

Performers: Guillaume Martinet, Eric Longequel

『遠野物語・奇ッ怪 其ノ参』

Based on "Tono Monogatari" by Kunio Yanagita

Written and Directed by Tomohiro Maekawa

Music, Stage Manager: David Maillard

"Tono Monogatari Kikkai Part 3"

Presented by Setagaya Public Theatre (Setagaya Arts Foundation)

原作:柳田国男 (「遠野物語」角川ソフィア文庫) 脚本・演出:前川知大

主催:世田谷パブリックシアター(公益財団法人せたがや文化財団)、エッチビイ

Performers: Toru Nakamura, Koji Seto, Takaya Yamauchi, Nobue Iketani,

Presented by Setagaya Public Theatre (Setagaya Arts Foundation), HB.inc

Junpei Yasui, Shinya Hamada, Wako Ando, Renge Ishiyama, Guin-Poon-Chaw

Performances: 3

Audience: 762

全3ステージ

来場:762名

10/31(Mon) - 11/20 (Sun) 世田谷パブリックシアター 全 25 ステージ

10/14 (Fri) - 10/16 (Sun)

世田谷パブリックシアター

Setagaya Public Theatre

来場:11.111名 Setagaya Public Theatre Performances: 25 Audience: 11,111

フィリップ・ドゥクフレ カンパニー DCA『CONTACT -コンタクト』

演出・振付: フィリップ・ドゥクフレ 主催:公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

Compagnie DCA/Philippe Decouflé "CONTACT" Directed and Choreographed by Philippe Decouflé

Presented by Saitama Arts Foundation

10/28 (Fri) - 10/30 (Sun) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 全3ステージ

来場:1,846 名 Saitama Arts Theater (Main Theater) Performances: 3 Audience: 1,846

座・高円寺 1

Za-Koenji 1

全 15 ステージ

来場: 2.154 名

Performances: 15

Audience: 2.154

11/3 (Thu) - 11/13 (Sun)

座・高円寺 秋の劇場 19 日本劇作家協会プログラム てがみ座『燦々』

脚本:長田育恵 演出:扇田拓也

主催:てがみ座

Za-Koenji Autumn Program 19 & Japanese Playwrights Association Series

Tegami-za "sun-sun" Written by Ikue Osada Directed by Takuya Senda

Presented by Tegami-za

座・高円寺 秋の劇場 20 日本劇作家協会プログラム 燐光群『天使も嘘をつく』

作·演出: 坂手洋二

主催: 燐光群/(有) グッドフェローズ

Za-Koenji Autumn Program 20 & Japanese Playwrights Association Series RINKOGUN Theatre Company "Even an Angel Tells Lies"

原作:近松門左衛門 脚本:フジノサツコ 演出:森新太郎 主演:橋爪功

Written and Directed by Yoji Sakate

演劇集団円『景清』

Theatrical group En "Kagekiyo"

Written by Satsuko Fujino

Directed by Shintaro Mori

Starring Isao Hashizume Presented by Theatrical group En

Original Text: Chikamatsu Monzaemon

Presented by RINKOGUN Theatre Company, GOOD FELLOWS

主催:演劇集団円 提携:公益財団法人武蔵野文化事業団

In association with the Musashino Cultural Foundation

11/18 (Fri) - 11/27 (Sun) 座・高円寺 1 全 14 ステージ 来場: 1.840 名 Za-Koenji 1

Performances: 14 Audience: 1,840

11/17 (Thu) - 11/27 (Sun)

吉祥寺シアター 全 11 ステージ 来場: 2,081 名 Kichijoji Theatre Performances: 11 Audience: 2,081

ディレクターグ 42 岡田利規 短編小説選『女優の魂』『続・女優の魂』

原作: 岡田利規 演出:マ・ドゥヨン 翻訳・ドラマターグ: イ・ホンイ

主催: こまばアゴラ劇場・(有) アゴラ企画

企画制作:ディレクターグ42/こまばアゴラ劇場・(有)アゴラ企画

DIRECTURG42 "The Soul of the Actress" and its sequel by Toshiki Okada

Original Text: Toshiki Okada Directed by Duyoung Ma

Translation, Dramaturge: Hongyie Lee

Presented by Komaba AGORA Theater (Agora Planning, Ltd.)

Planned and Produced by DIRECTURG42, Komaba AGORA Theater (Agora Planning, Ltd.)

F/Tチケットセンターにて一般前売りのみ取扱い

11/23 (Wed) - 11/27 (Sun) アトリエ春風舎 全6ステージ 来場:184名 ATELIER SHUNPUSHA Performances: 6 Audience: 184

F/Tチケットセンターにて一般則売りいめキレスカメレぃ
For these performances, only advance general tickets were available from the F/T Ticket Center

5 収支、来場・参加者数、チケット

Earnings & Expenditure, Audience & Participant Numbers, Tickets

5-1 F/T16 収支 F/T16 Earnings & Expenditure

収入 Income

(千円/1,000 yen units)

(十円/	/ 1,000 yen units)
豊島区負担金 Toshima City	10,000
アーツカウンシル東京負担金 Arts Council Tokyo	130,000
文化庁助成金 Agency for Cultural Affairs	72,000
国際交流基金アジアセンター共催分担金 Japan Foundation Asia Center	7,300
助成金·協贊金等 Other subsidies and sponsorship	3,100
事業収入 Income from activities	15,000
実行委員会負担金 Festival/Tokyo Executive Committee	2,000
合計 Total	239,400

2017年2月現在 Correct as of February 2017

支出 Expenditure

(千円/1,000 yen units)

	(113) 1,000 yell dille)
公演事業費 Productions	135,700
広報費 PR	17,000
事務局運営費 Administration	86,700
合計 Total	239,400

2017年2月現在 Correct as of February 2017

5-2 来場·参加者数 Audience & Participant Numbers

	演目・企画数 Productions/Events	公演数 Performances	来場・参加者数 Audience/Participants
主催プログラム Main Program	16	77	28,744
主催·関連企画 Related Events	21	-	2,336
人材育成プログラム [*] Training Program	3	-	628
連携プログラム Affiliated Program	14	94	51,306
合計 Total	54	171	83,014

※人材育成プログラムには、F/Tサポーター、F/Tキャンパス、インターンシップ・プログラムが含まれます。

5-3 チケット Tickets

■先行割引チケット

期間: 9/7 (Wed) 10:00 - 9/10 (Sat) 19:00 割引率: 一般前売チケットの約 30% OFF。枚数限定。

F/T14より継続してきた先行割引を今回も実施。期間は昨年と同様の4日という短期であったが、F/Tにおけるチケット総販売枚数の20%以上を売り上げるなど、購入者側にも先行割引が浸透してきたことを実感できる結果となった。

■ Early Bird Discounts

9/7 (Wed) 10:00 - 9/10 (Sat) 19:00

Approx. 30% off regular ticket prices (limited availability)

F/T has offered early bird discounts since the 2014 festival. Like last year, F/T16 only offered the reduced-price tickets on four days but the popularity of the initiative is now apparent as over 20% of tickets available for F/T16 performances were sold.

■チケットー般発売

期間:9/11 (Sun) 10:00 - 12/10 (Sat) 19:00

この期間より F/T 独自の割安なチケットである 3 演目 / 5 演目セット券やペア券、学生割引チケット等の発売を開始。チケット販売システムの改良により、英語でのチケット予約・購入手順がより簡易にわかりやすくなり、外国人向けのチケット販売において一定の効果をあげた。

■ Tickets on General Sale

9/11 (Sun) 10:00 - 12/10 (Sat) 19:00

Tickets were on general sale during this period, including special set tickets and passes for three and five performances as well as pair and student discounts. Reserving and purchasing tickets in English was made easier with a new online system, resulting in some gains in sales to audiences from overseas.

■チケット営業

F/T の理念や意義を伝える大学での出張授業の実施や、演劇養成所への学生料金の適用など、若年層に向けて重点的にアプローチを行なった。特に大学では、F/T 主催プログラムの観劇とレポート提出をカリキュラムの一貫として複数の大学が取り入れたことで、まとまった数量のチケット販売に結びついた。

また、F/T と親和性の高い公演の劇場ロビーにて、『Woodcutters 一 伐採 一』など海外招聘演目のチケットを販売し、効果があった。

■ Ticket Promotion

In order to grow ticket sales with younger audiences, the festival gave talks at universities and extended student discounts to theatre training institutions. Several universities included going to see a performance at F/T16 and writing a report about it as part of the curriculum, which led to an increase for group ticket sales. Tickets for "Woodcutters" were also sold in the lobbies of theatres with close links to the festival, helping to boost sales for this highlight of the 2016 lineup.

■主催プログラムチケット料金

タイトル/Title	席種	一般前売 General Tickets	先行割引 Early Bird Discounts	5演目セット Festival Pass (5 Performances)	3演目セット Festival Pass (3 Performances)	学生 Student Tickets	高校生以下 High School Students and Under Tickets
フェスティバルFUKUSHIMA! @池袋西口公園 Festival Fukushima! @lkebukuro Nishiguchi Park	野外	入場無料 Free					
シカク Blind Spot	自由席	¥4,000	¥2,800	¥3,200	¥3,400	¥2,600	¥1,000
福島を上演する Performing Fukushima	自由席	¥3,500	¥2,500	¥2,800	¥3,000	¥2,300	¥1,000
福島を上演する 4回セット券 "Performing Fukushima" 4-Performance Set	自由席	¥12,000	¥9,000	_	_	_	_
哀れ、兵士 All the Soldiers are Pathetic	全席指定	¥3,500	¥2,500	¥2,800	¥3,000	¥2,300	¥1,000
NADIRAH NADIRAH	自由席	¥3,500	¥2,500	¥2,800	¥3,000	¥2,300	¥1,000
B.E.D.(Episode 5) B.E.D.(Episode 5)	参加型	¥2,000	¥1,400	¥1,600	¥1,700	¥1,300	¥1,000
BONDINGS BONDINGS	自由席	¥2,500	¥1,800	¥2,000	¥2,200	¥1,600	¥1,000
POLITIKO POLITIKO	参加型	¥1,500	¥1,100	¥1,200	¥1,300	¥1,000	¥1,000
Woodcutters — 伐採 — Woodcutters	全席指定	¥5,500	¥3,800	¥4,400	¥4,700	¥3,000	¥1,000
x / groove space x / groove space	参加型	¥3,500	¥2,500	¥2,800	¥3,000	¥2,300	¥1,000
ドーレホイヤーに捧ぐ『人間の激情』『アフェクテ』『エフェクテ』 Hommage à Dore Hoyer	全席指定	¥4,000	¥2,800	¥3,200	¥3,400	¥2,600	¥1,000
ふくちゃんねる Channel Fuku	自由席	¥2,000	¥1,400	¥1,600	¥1,700	¥1,300	¥1,000
うたの木 Song Tree	自由席	¥1,500	¥1,100	¥1,200	¥1,300	¥1,000	¥1,000
となり街の知らない踊り子 The Unknown Dancer in the Neighboring Town	自由席	¥2,500	¥1,800	¥2,000	¥2,200	¥1,600	¥1,000
あなたが彼女にしてあげられることは何もない There is Nothing You Can Do for Her	自由席	¥2,000	¥1,400	¥1,600	¥1,700	¥1,300	¥1,000
Buddha Boxing Buddha Boxing	自由席	¥2,000	¥1,400	¥1,600	¥1,700	¥1,300	¥1,000
F/Tトーク Talks	_	¥500 (予約優先) (Priority to reservations)					
シンポジウム Symposium	_			¥1,500			
展示 Exhibitions	_			入場無料	Free		

※自由席は、『POLITIKO』『x / groove space』』『ふくちゃんねる』『うたの木』を除き、整理番号つき。

広報、宣伝

Publicity & Promotion

広報·宣伝方針 Publicity & Promotion Policy

9回目となる F/T16 では、これまで築いてきたブランドイメージとファン層から支持を強めながら、潜在 的なファン層も掘り起こすことを目指した。東京芸術祭との連動、広報予算の絞込みの中で、コアな演劇/アー トファンに対しては、ある程度の認知/浸透を前提とし、来場意欲を促進するダイレクト・マーケティング およびコンテンツ・マーケティングを軸とした。また、潜在ファン層に向けては、カルチャー誌だけではなく、 一般誌へタイアップ広告も展開し、劇場への接触頻度が低い層に向けてアピールした。タイアップ広告では、 知名度の高い文化人の登場により、幅広い層からの舞台芸術への興味喚起を促した。また、動画素材や、ウェ ブサイトおよび SNS のより積極的な活用など、メディア・トレンドに対応した戦略を展開した。個別の演目 に関しては、各演目との親和性の高い媒体へパブリシティを中心に展開し、着実な集客を目指した。

For the ninth iteration of Festival/Tokyo, the festival aimed to build on its existing brand image and fan base while also looking to reach untapped audiences. In partnership with Tokyo Metropolitan Festival 2016, the PR budget was narrowed on the presumption that F/T has already established a strong foothold with regular theatregoers and audiences for the arts, and the focus instead switched to direct marketing and content marketing to encourage attendance from other kinds of audiences. As such, tie-up advertising was placed in general magazines rather than just cultural titles in order to reach audiences ordinarily with little contact with theatre. These tie-up advertisements used well-known cultural figures to stimulate interest from a wide readership. New strategies were developed proactively using videos, the festival website, and social media. For the individual productions, publicity targeted publications with a high affinity with the respective production in order to successfully attract audiences.



F/T16 メインビジュアル Main visual

AD:氏家啓雄(有限会社氏家プランニングオフィス)

illustration: naomi@paris,tokyo

Art Direction: Yoshio Ujiie (Ujiie planning office)

Illustrations: naomi@paris.tokyo

6-2 宣材 Publicity Materials

宣材は、主に全プログラムの詳細やスケジュールを網羅した ブックレットと各演目別のチラシを作成。関連施設への置きチラ シや、さまざまな公演への折込みを積極的に展開し、F/T16の 来場促進施策の核となった。

メインビジュアルには、F/T15 を継承し、ロゴとイラストを組 み合わせた明るいイメージを採用した。都市型フェスティバルで ある F/T の特長を、水彩画の躍動感あふれるタッチで表現し、 各種宣材をより印象的にアピールした。

Publicity materials included a booklet giving an overview of the festival's events and schedule as well as flyers for individual productions. Potential audiences were reached by leaving flyers at partner institutions and facilities, and also at the venues for other performances. The main visual design for the festival followed on from the 2015 rebranding, employing a colorful and upbeat combination of logo and illustrations. The key character of the festival as an event that happens in a city was expressed with vibrant watercolors, adding a striking impact to the festival's publicity materials.

	仕様 Format	配布期間 Distribution Period	印刷部数 Print Run	
ティザーチラシ 1	A4 両面	5月24日~6月末	25,000	
Teaser Flyer 1	Double-sided A4	May 24th – end of June		
ティザーチラシ 2	A4 両面	7月12日~会期中	50,000	
Teaser Flyer 2	Double-sided A4	July 12th – festival period		
ブックレット	A5 横長仕上がり 36 ページ	8月17日~会期中	70,000	
Booklet	PA5 (oblong), 36 pages	August 17th – festival period		
各演目チラシ	各演目による	8 月上旬~会期中	各演目 (per production)	
Production Flyers	Varied per production	Early August – festival period	5,000 ~ 20,000	
ポスター	B2	9 月中旬~会期中	700	
Poster	B2	Mid-September – festival period		
当日パンフレット	A5 仕上がり3ッ折	各演目の会場にて	各演目の座席数に準じる	
Performance Pamphlets	A5, triple fold	At each venue	Varies per venue	







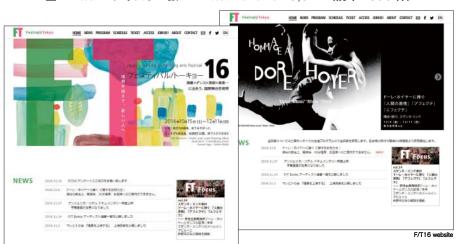
6-3 ウェブサイトおよび SNS Website & Social Media

公演情報告知やチケット購入の拠点として、ユーザビリティーの 高さを維持しながら、メインビジュアルを効果的に配置したグラフィ カルなウェブサイトを日本語と英語で作成した。公演情報は、一覧 の表示の他に、演目のジャンルごとの絞り込み表示を可能とし、ユー ザーの興味に合わせた演目選択を促した。ネット上での広告出稿 の絞り込みにより、全体のセッション数は前年に比べ減少したが、 新規セッション率や離脱率がともに改善。Facebook や twitter な ど SNS の積極活用や、ウェブマガジンの発行などの公演基本情報 以外のコンテンツを掲載することにより、ユーザーからの共感や支 持を高めた。デバイスの傾向は、モバイル 6 に対し PC が 4 となっ ており、モバイルからのアクセスが高い傾向が続いている。

The festival produced a bilingual (Japanese, English) website that made effective use of the main visual design while also maintaining high usability so as to be a strong platform for performance information and announcements as well as purchasing tickets. Information about performances could be viewed as a list and also sorted by type, allowing website users to select the content that matched their interests more easily. Narrowing the use of online advertising led to a decline in the overall number of sessions compared to the previous year's festival, though there was an improvement in the new sessions and abandonment rates. Proactive utilization of social media like Facebook and Twitter as well as publishing content other than the main performance information such as a new online magazine helped to build support from users. Traffic per device had a mobile-PC ratio of 6:4, indicating a continued trend towards mobile access.

	F/T16 (8/25 ~ 12/11)	会期中(10/15 ~ 12/11)
セッション数 Sessions	96,137	55,119
P V 数 Page Views	231,548	118,477
一訪問あたりPV数 Page Views per Visit	2.41	2.15
平均セッション時間 Average Session Length	0:02:15	0:01:56
平均ページ滞在時間 Average Time on Page	0:01:36	0:01:41

■ Facebook いいね!数: Facebook Likes 5.569 (前年 +762 件) ■ Twitter フォロワー数: Twitter Follows 8,912 (前年+395件)



6-4 掲載実績、広告費換算 Press Coverage Results & Advertising Value

総数: 293件 Total: 293	
新聞 Newspapers	21 件
雑誌・フリーペーパー Magazines/Free publications	48 件
電波 Broadcasting	9件
WEB Online	215 件

広告換算額:約9,000万円 Equivalent Advertising Value: approx. 90,000,000 JPY ※ 2017年2月現在 Correct as of February 2017





6-5 ウェブマガジン「F/T Focus」 Online Magazine "F/T Focus"

メディア環境・情報流通構造の変化に対応するためにウェブマガジン「F/T Focus」を2016年8月より刊行。演目と関連したアーティスト・インタビューや対談レポート、専門家からの寄稿などにより、F/T だからこそ体験できる演劇・ダンス・美術・音楽の魅力を発信した。

舞台情報・レビュー掲載などは減少傾向にあり、観客にとつては、鑑賞公演選択のための情報入手や観劇体験を深めるための記事の入手が、困難な状況になってきた。F/T 自身が、告知・宣伝にとどまらない良質な情報の発信者となることで、現状の打開やコンテンツマーケティングの一環として、潜在顧客の掘り起こしも目指した。演目に合わせ、若手からベテランまで幅広い執筆者やゲストが登場。多彩な演目の集合体であるフェスティバルの良さを活かし、豊富なコンテンツを生み出すメディアとしての新たな可能性を追求した。

F/T Focus was an online magazine launched in August 2016, featuring interviews and articles about the productions in the festival. As information about the performing arts and reviews are published less and less by the mainstream media in Japan, opportunities for audiences to read in-depth articles about theatre and dance are decreasing. F/T aimed to reach new audiences through a new content marketing initiative that shared quality online material rather than just announcements and publicity. Each of the productions in the F/T16 Main Program was featured in the series of articles written by a range of guest contributors.



vol.1 市村作知雄×中村政人 対談 「境界を越えて、新しい人へ」

取材・執筆:藤原ちから

vol.2 井手茂太× ASA-CHANG 対談 イデビアン・クルー『シカク』

取材・執筆:石井達朗

vol.3 パク・グニョン×辺 真一 対談 『哀れ、兵士』が描き出すもの

執筆: 西本 勲

vol.4 クリスチャン・ルパの『伐採』

寄稿:池田信雄

vol.5 「クラブ」空間に見るダンス/社会 セバスチャン・マティアス 『x / groove space』

取材・執筆:島貫泰介

vol.6 山岸清之進×藤井 光 対談 プロジェクト FUKUSHIMA! 盆踊りから振り返る未来

取材・執筆: 坂口千秋

vol.7 鴻 英良×ピョトル・ルツキ 対談 『Woodcutters - 伐採 --』

取材・執筆:鈴木理映子

vol.8 リー・レンシン インタビューマレーシア特集 『B.E.D.(Episode 5)』

取材・執筆:岩城京子

vol.9 福田 毅 インタビュー まちなかパフォーマンスシリーズ 『ふくちゃんねる』

取材・執筆:落 雅季子

vol.10 マレーシア特集 舞台『NADIRAH』と ヤスミン・アフマド監督『ムアラフ 改心』について

vol.11 森川弘和 インタビュー まちなかパフォーマンスシリーズ『うたの木』 取材・執筆:落 雅季子

vol.12 マレーシア特集『NADIRAH』 日本公演に寄せて

寄稿:谷地田未緒

Vol.13 松田正隆×桜井圭介『福島を上演する』 マレビトの会の真っ当にして新しい「ドラマ演劇」のススメ 取材・執筆:鈴木理映子

vol.14 スザンネ・リンケ メールインタビュー スザンネ・リンケ振付『人間の激情』

『アフェクテ』『エフェクテ』 -表現主義舞踊家ドーレ・ホイヤーとダンスの記憶/未来

取材・執筆:新野守広

vol.15 『Buddha Boxing』 アンビエント・サウンドの自動生成装置 「ブッダマシーン」を生んだ音楽ユニット、 < FM3 >

寄稿:五十嵐 玄

・FM3(ジャン・ジエン、ラオ・チャオ) メールインタビュー

取材・執筆:小山ひとみ

vol.16 アンジェリカ『ある悲劇』 アジアプレミア上映にあたり

寄稿:横堀応彦

vol.17 都市と舞台、その間にあるロビーの可能性 F/T サポーターワークショッププログラム

「都市と舞台の小道具展」について

寄稿:伊藤孝仁(tomito architecture)

7 来場者アンケート Audience Questionnaire

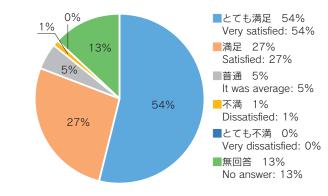
より良いフェスティバルの運営のため、主催公演の来場者にアンケートを実施した。アンケートは、公演会場の他、後日ウェブサイト上でも回答可能となっており、合計 423 件の回答が得られた。

公演の満足度は、全公演の合計で「とても満足」54%、「満足」27%と高い数値となった。過去の F/T の来場経験は 35% の人が「はじめて」と一番多く、新たな観客層が取り込まれていることが確認できた。公演を知った経路は、F/T ウェブサイトが最も多く、ブックレット、公演チラシと続く。ウェブサイトだけではなく、劇場への折り込みや大学や美術館などでのチラシ配布が、集客の要となっている。年代では、20 代が最も多いが、僅差で 40代となっており、若年層へのアピールも課題となっている。

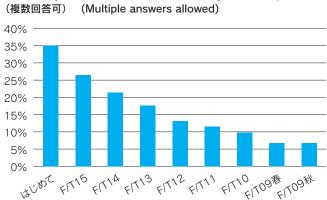
In order to improve the operation of the festival, a questionnaire was distributed to audiences at performances in the F/T16 Main Program. Completed questionnaire could be submitted at the performance venues as well as online at a later date. A total of 423 questionnaires were received.

The results indicated a high level of satisfaction with the festival's performances: 54% of respondents said they were "very satisfied" with the performance as opposed to only 27% who were "dissatisfied." Since 35% of respondents said they were attending the festival for the first time, Festival/Tokyo would also seem to be reaching new audiences. The most common way that audiences are hearing about the performances was through the F/T website, followed by the official booklet and flyers. Distributing flyers to theatre venues as well as universities and art museums would appear to play an important role in attracting audiences. Audiences are predominantly aged between 20 and 29, though this is closely followed by those aged between 40 and 49. As such, work still needs to be done to attract younger audiences to the festival.

■本日の公演はいかがでしたか What was your impression of the performance today?

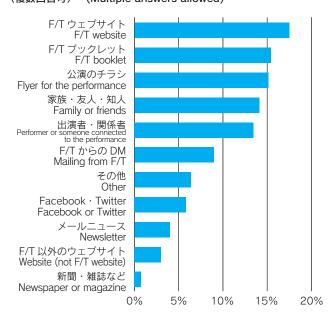


■過去のフェスティバル / トーキョーへのご来場経験はありますか? Have you attended Festival/Tokyo in the past?

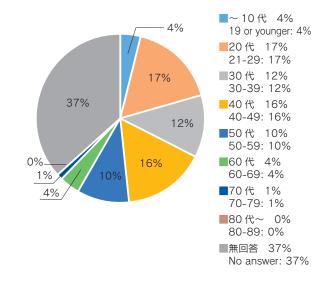


■本日の公演を何でお知りになりましたか? How did you learn about the performance?

(複数回答可) (Multiple answers allowed)



■回答者の年齢 Age



開催概要、クレジット一覧

About, Credits

開催概要

フェスティバル / トーキョー 16

平成28年(2016年)10月15日(土)-12月11日(日) 会期

会場 東京芸術劇場

あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)

にしすがも創造舎 池袋西口公園 森下スタジオ ほか

プログラム数 主催プログラム 16 演目・4 企画

連携プログラム 14 演目

フェスティバル / トーキョー実行委員会 主催

豊島区/公益財団法人としま未来文化財団/ NPO 法人

アートネットワーク・ジャパン、

アーツカウンシル東京・東京芸術劇場(公益財団法人東

京都歴史文化財団)

アジアシリーズ共催 国際交流基金アジアセンター 協替

アサヒビール株式会社、株式会社資生堂 後援 外務省、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、

I-WAVE 81.3 FM

特別協力 西武池袋本店、東武百貨店池袋店、東武鉄道株式会社、

株式会社サンシャインシティ、チャコット株式会社

協力

東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区 町会連合会、一般社団法人豊島区観光協会、一般社団法 人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会、池袋西口商 店街連合会、特定非営利活動法人ゼファー池袋まちづく り、池袋西口公園活用協議会、南池袋公園をよくする会、

ホテルメトロポリタン、ホテル グランドシティ、池袋ホテ

官伝協力 株式会社ポスターハリス・カンパニー、早稲田大学坪内

博士記念演劇博物館

平成 28 年度 文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業(池 袋/としま/東京アーツプロジェクト事業、としま国際アートフェスティバル事業)

公益社団法人企業メセナ協議会 2021 芸術・文化による社会創造ファ ンド採択事業

れました。

Festival Outline

Festival/Tokyo 2016 (F/T16) Name:

October 15th (Sat) to December 11th (Sun), 2016 Period:

Tokyo Metropolitan Theatre, Venues:

Owlspot Theater.

Nishi-Sugamo Arts Factory, Ikebukuro Nishiguchi Park,

Morishita Studio, and more

Programs: F/T Main Program (16 productions, 4 event programs)

F/T Affiliated Program (14 productions)

Organizers: Festival/Tokyo Executive Committee,

Toshima City, Toshima Mirai Cultural Foundation, NPO Arts Network

Japan (NPO-ANJ).

Arts Council Tokyo & Tokyo Metropolitan Theatre (Tokyo Metropolitan

Foundation for History and Culture)

Asia Series co-organized by the Japan Foundation Asia Center

Sponsored by Asahi Breweries, Ltd., Shiseido Co., Ltd.

Endorsed by Ministry of Foreign Affairs, GEIDANKYO, J-WAVE 81.3 FM

Special co-operation from SEIBU IKEBUKUROHONTEN, TOBU DEPARTMENT STORE IKEBUKURO, TOBU RAILWAY CO., LTD., Sunshine City Corporation,

In co-operation with Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima, Toshima City Shopping Street Federation, Toshima City Federation, Toshima City Tourism Association, Toshima Industry Association, Toshima Corporation Association, Ikebukuro Nishiguchi Shopping Street Federation, NPO Zephyr, Ikebukuro West Gate Park Management, Neighborhood of the Minami Ikebukuro Park, Hotel Metropolitan Tokyo, Hotel Grand City, Ikebukuro Hotel Association

PR Support: Poster Hari's Company,

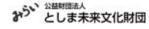
The Tsubouchi Memorial Theatre Museum, Waseda University

Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal

Supported by Association for Corporate Support of the Arts, Japan (2021 Fund for Creation of Society by the Arts and Culture)

フェスティバル / トーキョー 16 は東京芸術祭 2016 の一環として開催さ Festival/Tokyo 2016 is organized as part of Tokyo Metropolitan Festival 2016.



















































■フェスティバル / トーキョー実行委員会

公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 会長、 野村 萬 福原義春 株式会社資生堂 名誉会長

名誉実行委員長 高野之夫 曼島区長 公益財団法人新国立劇場運営財団 顧問、アサヒ 実行委員長 福地茂雄

ビール株式会社 社友

NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 会長 小澤弘— 豊島区文化商工部長

市村作知雄

副実行委員長

委員

東澤 昭 公益財団法人としま未来文化財団 常務理事

尾﨑元規 公益社団法人企業メセナ協議会 理事長、

花干株式会社 顧問

能會純子 東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科 教授 斉藤幸博 株式会社資生堂 企業文化部長

アサヒビール株式会社 経営企画本部社会環境部 鈴木敦子

部長

東京商工会議所豊島支部 会長 鈴木正美 公益財団法人せたがや文化財団 理事長 永井多恵子 樋口友久 豊島区文化商工部文化デザイン課長 岸正人 公益財団法人としま未来文化財団 部長 蓮池奈緒子 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 理事長

葦原円花 フェスティバル / トーキョー 事務局長 フェスティバル / トーキョー 副ディレクター 河合千佳

佐々木美津子 豊島区総務部総務課長 法務アドバイザー 福井健策、北澤尚登 (骨董通り法律事務所)

Festival/Tokyo Executive Committee

Man Nomura (Chair, Japan Council of Performers Rights & Performing Arts

Organizations Noh actor)

Yoshiharu Fukuhara (Honorary Chair, Shiseido Co., Ltd.) Honorary President of the Executive Committee:

Yukio Takano, Mayor of Toshima City

Chair of the Executive Committee:

Shigeo Fukuchi (Advisor New National Theatre Foundation, Senior Alumnus, Asahi Breweries Ltd.)

Vice Chair of the Executive Committee:

Sachio Ichimura (Director, NPO Arts Network Japan [NPO-ANJ])

Koujichi Ozawa (Director of Culture, Commerce and Industry Division of Toshima City) Akira Touzawa (Director of Secretariat of Toshima Mirai Cultural Foundation)

Committee Members:

Motoki Ozaki (President, Association for Corporate Support of the Arts, Corporate Advisor, Kao Corporation)

Sumiko Kumakura (Professor, Department of Musical Creativity and the Environment

Tokyo University of the Arts)

Yukihiro Saito (General Manager, Corporate Culture Department, Shiseido Co., Ltd.) Atsuko Suzuki (General Manager, Social & Environmental Department, Asahi Breweries, Ltd.)

Masami Suzuki (Chair, Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima)

Taeko Nagai (Chair, Setagaya Arts Foundation)

Tomohisa Higuchi (Culture, Commerce and Industry Division of Toshima City, Director of Cultural Design Section)

Masato Kishi (Executive Manager of Toshima Mirai Cultural Foundation) Naoko Hasuike (Representative, NPO Arts Network Japan [NPO-ANJ]) Madoka Ashihara (Administrative Director, Festival/Tokyo)

Chika Kawai (Vice Director, Festival/Tokyo)

Supervisor

Mitsuko Sasaki (General Affairs Division, Director of General Affairs Section of Toshima

Legal Advisors:

Sales & Planning:

Ticket Administration:

Public Relations:

Accounting:

Administrator:

Kensaku Fukui, Hisato Kitazawa (Kotto Dori Law Office)

■フェスティバル / トーキョー実行委員会事務局

市村作知雄 ディレクター 副ディレクター 河合千佳 事務局長 葦原円花

制作 喜友名織江、十万亜紀子、荒川真由子、砂川史織、

松嶋瑠奈、松宮俊文、横井貴子、岡崎由実子、 三竿文乃、藤井友理、細川浩伸、米原晶子

堂業 長原理江

小倉明紀子、武田侑子 広報 経理 堤 久美子

総務 平田幸来 武井和美 票券 チケットセンター 佐々木由美子、佐藤久美子

技術監督 寅川英司

技術監督アシスタント 河野千鶴 照明コーディネート 佐々木真喜子 (株式会社ファクター) 相川 晶(有限会社サウンドウィーズ) 音響コーディネート

アートディレクション 氏家啓雄(有限会社氏家プランニングオフィス)

イラスト naomi@paris,tokyo

サウンドロゴ 西井夕紀子 竹下雅哉(有限会社氏家プランニングオフィス) ウェブサイト

海外広報·翻訳 ウィリアム・アンドリューズ 渡辺 淳 物版 コピーライティング 鈴木理映る

プログラム・コーディネート 中国プログラム・コーディネート 小山ひとみ

Festival/Tokyo Executive Committee Secretariat

Sachio Ichimura Director Vice Director: Chika Kawai Administrative Director: Madoka Ashihara

Production Coordinators: Orie Kiyuna, Akiko Juman, Mayuko Arakawa,

Shiori Sunagawa, Luna Matsushima,

Toshifumi Matsumiya, Takako Yokoi, Yumiko Okazaki, Ayano Misao, Yuuri Fujii, Hironobu Hosokawa, Akiko Yonehara

Rie Nagahara Akiko Ogura, Yuko Takeda Kumiko Tsutsumi Saki Hirata

Kazumi Takei

Ticket Center: Yumiko Sasaki, Kumiko Sato

Technical Director: Eiji Torakawa Assistant Technical Director: Chizuru Kouno

Lighting Coordination: Makiko Sasaki (Factor Co., Ltd.) Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.) Sound Coordination:

Art Direction: Yoshio Ujiie (Ujiie planning office) Illustrations: naomi@paris,tokyo

Sound Logo: Yukiko Nishii

Wehsite: Masaya Takeshita (Ujiie planning office) Overseas Public Relations, Translation: William Andrews

Merchandise: lun Watanahe Copywriting: Rieko Suzuki Program Coordinator: Masahiko Yokobori Chinese Program Coordinator: Hitomi Oyama